

令和7年度

事業報告書



社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会

目次

序 文	1
総務課・福祉センター	2
地域福祉課	16
相談支援課	40
在宅福祉課	51

令和7年度 東近江市社会福祉協議会事業報告

つながりと地域愛でつくる **ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ

令和7年度は、国際情勢の不安定化や物価高騰の影響が長期化する中、国内においては人口減少と少子高齢化が一層進行し、地域社会を支えてきた人と人とのつながりや相互扶助の基盤が社会構造の変化を背景に、その持続性が問われる一年であった。また、自然災害の頻発・激甚化は、平時からの地域における備えや支え合いの重要性を改めて認識させるものとなった。

東近江市においても、高齢者のひとり暮らし世帯の増加や、認知症高齢者を含む見守りニーズの高まり、生活困窮やひきこもり、ヤングケアラーなど、複合的な課題を抱える世帯への支援の必要性が顕在化している。加えて、自治会活動や地域での福祉活動における担い手不足、ボランティアの高齢化といった地域基盤そのものの課題も、地域福祉の推進において看過できない状況となっている。

こうした中、東近江市社会福祉協議会は、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域づくり」を基本理念に掲げ、行政や関係機関、地域住民との連携・協働のもと、地域福祉の推進に取り組んできた。

地域福祉分野においては、4課連携の下、第3次地域福祉活動計画の推進と併せ、令和9年度からの第4次地域福祉活動計画の策定に向けた取組を開始し、総合的な地域福祉活動の指針となるよう、地域の現状や課題を的確に捉え、今後の本会活動の基盤となる計画づくりを進めている。

また、重層的支援体制整備事業によるアウトリーチ支援をはじめ、見守り会議の開催、生活支援サポーターの養成、地区ボランティアセンターの設置推進等に取り組んだ。これらの取組を通じて、住民主体の支え合い活動や地域の福祉活動者とのつながりが広がり、孤立防止や地域全体での支え合い、見守り合いに対する意識の醸成が図られた。一方で、今後は地域における担い手不足への対応、地域ごとの実情に応じた継続的な支援のあり方の検討、さらには一層複雑化する地域課題への対応が求められている。

相談支援分野においては、令和7年度から八日市地域包括支援センターを開設し、八日市エリアの高齢者が抱える介護や生活に関する多様な相談に対応するとともに、必要な支援へとつなぐ役割を果たしてきた。あわせて、地域包括ケアシステムの推進に向け、介護・医療専門職との連携強化や、地域福祉の推進による見守り・支え合いネットワークの充実に取り組んだ。

さらに、障害者の計画相談支援事業においては、利用者の増加に伴う体制強化として相談支援専門員2名を増員し、障がいのある方やその家族が抱える困りごとを丁寧に受け止めながら、利用者の意思決定支援を基本に、地域で生活していくために必要な福祉サービスや社会資源の提案等に努めた。

介護保険事業分野においては、制度改正や人材確保の困難さ等を背景に、依然として厳しい経営環境が続いており、こうした状況を踏まえ、本会として果たすべき役割を改めて整理し、持続可能な事業継続のあり方について検討を行った。次年度以降においても、収支改善に向けた取組を継続するとともに、地域に必要とされる介護サービスの提供を前提とした今後の事業の方向性について、引き続き検討を進める。

本事業報告書は、こうした令和7年度における本会の取組を総括し、その成果と課題を整理するとともに、次年度以降の地域福祉推進に向けた方向性を明らかにするものである。今後も、本市における地域福祉の中核的な推進主体として、関係者との連携を一層深めながら、地域共生社会の実現に向けた取組を進めていく。

総務課・福祉センター

1 民間法人として、独自性に採算性を兼ね併せた法人経営

(1) 経営組織のガバナンスと財政規律を強化し、全職員が一体となって組織・経営改善を行うとともに、計画的な事業執行と改革に取り組みました。

◇正副会長会議（三役会）の開催

	期 日	審 議 事 項
第1回	令和7年6月5日	理事会・評議員会提案事項について
第2回	令和7年9月5日	理事会・評議員会提案事項について
第3回	令和7年11月28日	理事会・評議員会提案事項について
第4回	令和8年3月10日	理事会・評議員会提案事項について

◇理事会・評議員会の開催

	期 日	審 議 事 項
第1回 理事会	令和7年6月12日 13時48分～	《議事》 ・令和6年度事業報告について ・令和6年度法人単位資金収支決算について ・令和7年度法人単位資金収支補正予算（第1号）について ・評議員選任・解任委員会委員の任期満了に伴う委員の選任について ・理事、監事の任期満了に伴う理事、監事候補者の推薦について ・評議員の任期満了に伴う評議員候補者の推薦について ・第1回評議員選任・解任委員会の招集及び提案事項について ・第1回評議員会の招集及び提案事項について 《報告事項》 ・令和6年度法人単位資金収支補正予算（第4号）の専決処分について
第2回 理事会	令和7年6月30日 9時30分～	《議事》 ・会長、副会長及び常務理事の選定について
第3回 理事会	令和7年9月9日 13時25分～	《議事》 ・事務局及び職員に関する規程の一部改正について ・給与規程の一部改正について ・第三者委員の委嘱に関し理事会の同意を求めることについて 《報告事項》 ・蒲生地域包括支援センター運営業務に関する公募型プロポーザルについて
第4回 理事会	令和7年12月9日 13時30分～	《議事》 ・非常勤職員就業規則の一部改正について ・令和7年度法人単位資金収支補正予算（第3号）について ・令和7年度第2回評議員会の招集及び提案事項について 《報告事項》 ・令和7年度事業実施状況報告について（4月～9月） ・令和7年度法人単位資金収支補正予算（第2号）の専決処分について ・東近江市法人指導監査の報告について

第5回 理事会	令和8年3月13日 13時48分～	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定款の一部変更について ・経理規程の一部改正について ・事務局及び職員に関する規程の一部改正について ・職員就業規則の一部改正について ・給与規程の一部改正について ・非常勤職員就業規則の一部改正について ・徴収不能欠損処理について ・令和7年度法人単位資金収支補正予算(第4号)について ・令和8年度事業計画について ・令和8年度法人単位資金収支予算について ・令和8年度役員等賠償責任保険契約の締結について ・令和7年度第3回評議員会の招集及び提案事項について <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与規程一部改正の専決処分について <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護事業等の経営状況及び今後の方向性について
第1回 評議員会	令和7年6月27日 13時55分～	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度事業報告について ・令和6年度法人単位資金収支決算について ・令和7年度法人単位資金収支補正予算(第1号)について ・理事、監事の任期満了に伴う理事、監事の選任について <p>《報告》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度法人単位資金収支補正予算(第4号)の専決処分について ・評議員選任・解任委員会委員の任期満了に伴う委員の選任について
第2回 評議員会	令和7年12月22日 13時30分～	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度法人単位資金収支補正予算(第3号)について <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度事業実施状況報告について(4月～9月) ・令和7年度法人単位資金収支補正予算(第2号)の専決処分について
第3回 評議員会	令和8年3月26日 13時52分～	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定款の一部変更について ・令和7年度法人単位資金収支補正予算(第4号)について ・令和8年度事業計画について ・令和8年度法人単位資金収支予算について

◇評議員選任解任委員会

期 日	審 議 事 項
令和7年6月20日 13時30分～	・評議員の任期満了に伴う評議員の選任について

◇監事会

	期 日	審 議 事 項
第1回 監事会	令和7年5月27日 9時00分～	・令和6年度事業・決算監査
第2回 監事会	令和7年8月19日 13時30分～	・令和7年度会計第1四半期監査(4月～6月)

第3回 監事会	令和7年11月18日 13時30分～	・令和7年度事業・会計第2四半期監査(7月～9月)
第4回 監事会	令和8年2月17日 13時30分～	・令和7年度事業・会計第3四半期監査(10月～12月)
東近江市 法人指導監査	令和7年11月5日 9時30分～	・社会福祉法人指導監査(令和6年度運営・会計)

(2) 第三者委員会の開催

第三者委員会を定期開催し、苦情解決や虐待防止に努めるとともに、事業改善に向けアドバイスを受けました。また、苦情内容や事故報告内容を職員に周知するとともに、同じような事故が起これないように事故防止の改善策についても共有することで職員の意識改革に努めました。

	期 日	審 議 事 項
第1回	令和7年9月19日 13時30分～	・令和7年2月1日～令和7年7月31日 苦情0件 事故報告14件(車両事故8件、介護関係4件、その他2件)
第2回	令和8年2月16日 10時00分～	・令和7年8月1日～令和8年1月31日 苦情1件 事故報告15件(車両事故8件、介護関係3件、その他4件)

2 経営管理の見直し

(1) 人事考課制度

適正な事業・財政・人事管理ができる組織運営を図り、育成・評価・処遇を一体化した人事考課制度の定着を進め、職員一人一人が基本理念・基本目標の達成に向け、8つの職員像を目指しました。また、公正・適正な考課の実施に向け研修を開催しました。

◇考課者研修

日 時：令和7年4月11日(金) 18時45分～

講 師：社会保険労務士 山田 真由子 氏

参加者：17名

内 容：課の目標設定ワークショップ



(2) 事業運営の透明性の向上

財務諸表や現況報告、社協会費や共同募金について、社会福祉法人の財務諸表電子開示システム(ワムネット)及び本会のホームページ・広報誌による情報公開を行いました。

(3) 財務規律の強化

社会福祉法人の会計基準に則り、適正かつ公正な収入支出管理を行い、顧問税理士による月例監査を実施しました。

また、職員一人一人がコスト意識と経営感覚を持ち、予算収支を意識した事業展開に取り組むため、正規・嘱託職員を対象に研修会を実施し、本会の財政状況の共有と、33年振りに改訂された社協基本要項2025の重要なポイントについて学びました。

◇顧問税理士による月例監査 毎月実施

◇社協財政状況報告会 令和7年8月4日(月) 52名参加(対象：正規嘱託職員)
会場43名、Zoom9名、動画視聴79名

(4) 各部署の連携強化

日常業務の円滑な実施のため管理職会議及び主幹会議を定期開催し、情報の共有化を図ると共に職員の共通認識を高めました。

◇管理職会議 2回

◇課長会議 12回

◇主幹会議 12回(各課・事務所・事業所へ伝達)

(5) 災害に備えた体制整備

発災時の初動体制や、発災後のフェーズごとの組織としての動き方、職員の動員について記したBCP(事業継続計画)を基に、作成した災害ボランティアセンター立上げ運営マニュアルや介護及び障害福祉サービス事業所としてのBCPが、災害時運用できるよう、職員間での共有や確認を行いました。また、災害に備えた食糧備蓄を進めました。

◇災害に備えた体制づくりプロジェクト会議 1回

◇災害用伝言版(w e b 1 7 1)体験実施

(6) 行政とのパートナーシップの向上

地域福祉推進に不可欠な行政と常日頃からつながりを持ち、東近江市に必要な新たな取組について、地域課題の共有を図りつつ、関係づくりに努めました。

3 職場体制の整備

(1) 組織体制の強化

市からの委託を受け、八日市地域包括支援センター事業を運営するための専門職(社会福祉士・主任介護支援専門員・保健師又は看護師)及びプランナーの配置、また、次年度からの蒲生地域包括支援センターの受託に伴う職員採用など、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる総合的な相談支援体制を構築しました。

また、地域福祉活動が複雑化・深刻化する中で、効率的かつ持続可能な組織運営を実現するため、理事会及び評議員会で決定した本会の事業計画や方針を具体的な現場レベルまで落とし込み、意思決定層と現場職員の間立ち、情報共有や事業調整をスムーズに行うとともに、組織の柔軟性、即応性を確保し、経営、現場、行政をつなぐ要として、次長級2名(総務・在宅福祉担当1名、地域福祉・相談支援担当1名(課長兼務))を配置しました。

(2) 多様な働き方と定年延長制度の導入

高齢者雇用安定法の改正に伴う65歳までの雇用確保義務に加え、生産年齢人口の減少による人材不足や複雑多様化する福祉課題へ対応するための専門的な知識、経験を持つ高齢期職員が活躍できるよう、段階的に定年65歳へ引き上げるための制度設計を行いました。

また、組織の新陳代謝を図るため、管理監督職勤務上限年齢制(役職定年制)の導入及び柔軟な働き方を推進するため、定年年齢前に退職した者であっても再任用嘱託職員又は非常勤職員として雇用継続できるよう制度整備を行いました。

(3) 魅力的な職場環境づくりの推進

すべての職員が、仕事と子育てや介護を両立し、生き生きと働きがいをもって継続勤務できることを目指す女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画により、仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を支援するため、雇用環境の充実を図りました。

◇育児休業(出生児育児休業含む)や産前産後休暇、介護休業等の周知を図り、取得しやすい環境整備に努めました。また、男女共に仕事と育児、介護を両立できるよう、本会の育児・介護休業法及び育児・介護短時間勤務制度について職員へ周知を行いました。

	女性	男性
産前産後育休対象者	0名	1名
取得者	0名	0名

◇ストレスチェックの実施

職員のストレスの程度を把握し、職員自身のストレスの気づきを促すとともに、職場改善につなげ、働きやすい職場づくりを進めました。

◇働き方改革に伴う時間外勤務の管理及び年次有給休暇5日間の完全取得有給休暇平均取得日数

正規職員・嘱託職員 12.7日 (付与に対する取得率 63.3%)

非常勤職員 10.7日 (付与に対する取得率 84.4%)

(令和8年3月31日現在)

- ◇安全衛生委員会の開催（毎月）
- ◇健診の要再検査の者への二次検査の促し
- ◇職員の健康管理のひとつの手段として「ノー残業デー」を徹底
- ◇職員の夏季特別休暇（最大5日）の完全取得

平均取得日数

正規職員・嘱託職員 4.8日（付与に対する取得率 96.9%）
 非常勤職員 3.8日（付与に対する取得率 98.1%）

（令和8年3月31日現在）

- ◇無期雇用契約の仕組みの運営（対象者1名）

- ◇人材育成計画の策定

職員の人材育成・資質向上と定着に向け、各課の主幹で構成するプロジェクト会議を立ち上げ、山田真由子社会保険労務士にコンサルタントとして関わっていただき、キャリアパス及び研修体系計画を策定しました。

	開催日	内容
第1回	令和7年7月8日	現状把握と分析
第2回	令和7年8月14日	キャリアパスのたたき台づくり①
第3回	令和7年9月11日	キャリアパスのたたき台づくり②
第4回	令和7年10月17日	キャリアパスのたたき台づくり③
第5回	令和7年11月11日	キャリアパスのたたき台づくり④
第6回	令和7年12月12日	キャリアパスと研修計画のたたき台づくり
	令和7年12月16日	課長会議で中間報告
第7回	令和8年1月16日	キャリアパスと研修計画の確認と導入方法の検討
第8回	令和8年2月12日	研修計画の確認と導入方法について キャリアパスの運用について

【評価と課題】

令和6年度に正規及び嘱託職員を対象に実施した職場環境アンケート結果から、人材育成計画の策定に取り組みました。既に運用している人事考課制度との整合性を図りつつ、キャリアパスの見直しとキャリアパスで示す能力や役割期待を果たせる人材を育成する研修体系計画を策定しました。令和8年度6月には、職員説明会を実施し周知を行います。また、令和8年度は引き続き具体的な研修プログラムの作成を行い、順次、研修を実施します。

(4) 職員の採用試験の実施

- ◇事務職正規職員（令和8年4月1日採用） 4名
 - 1次試験 令和7年10月26日（教養試験、適正検査、作文）
 - 2次試験 令和7年11月18日（集団面接、個人面接）

4 社協会費

自治会を通じて一般会費を依頼するため、各地区の自治会長会議に出席しました。また、会費の使いみちを示したチラシを作成し、より多くの市民のみなさまにご理解、ご協力いただけるよう働きかけました。特別会費・賛助会費については郵送で依頼し、賛助会員については、ご芳名を社協だよりに掲載するなど、会員の増加を目指した取組を実施しました。

	令和7年度	令和6年度
一般会費（世帯）	11,155,472円	11,270,464円
特別会費（個人）	565,000円（399件）	631,000円（470件）
賛助会費（法人・企業・団体）	1,164,000円（253件）	1,208,000円（268件）

【評価と課題】

賛助会費については社協取引業者に協力を依頼するなど、新規会員獲得に向けた働きかけを行いつつ、これまでご協力いただいていた会員についても引き続き依頼を行いましたが、実績については減額が続いています。

会費が寄附金控除の対象であることや協力いただいた企業を社協だよりに掲載するなど、会費に協力いただくことのメリットについても引き続き発信し、会員の獲得を積極的に促進します。

また、各世帯にお願いする一般会費については自治会を通じてお願いしており、自治会長様などから会費や社協活動に対するご意見をいただきます。これまで会費の目標額及び事業の計画で依頼していましたが、チラシに加え使途の実績の報告書を作成し、広く市民のみなさんにもご理解をいただき、ご協力いただけるよう、本会のホームページにも掲載し、会員拡大に努めます。

5 共同募金助成金の有効活用

赤い羽根共同募金運動の一層の推進により地域福祉財源の確保に努めるとともに、各団体への助成事業については、共同募金の趣旨に合った助成事業となるよう審査委員会による審査を行いました。

◇審査委員会

	期 日	審 議 事 項	助成実績
第1回	令和7年7月15日 14時30分～	地区住民福祉活動計画推進助成 地域の未来を拓く助成事業	14 団体 23 事業 3,522,000 円
		東近江市地域福祉活動応援助成	18 団体 484,700 円
		東近江市ボランティア活動助成	4 団体 150,000 円
		生活困窮問題に取り組む活動を応援する助成	3 団体 205,000 円
		見守り合い活動サポート助成	9 団体 180,000 円
第2回	令和7年11月21日 9時30分～	歳末たすけあい激励金	97 世帯 170 人 855,000 円
第3回	令和8年2月20日 13時30分～	ほっこりスマイルプロジェクト	4 団体 400,000 円



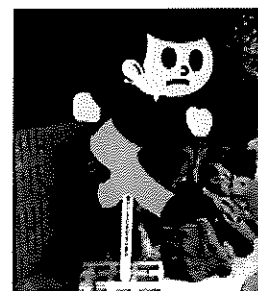
ほっこりスマイルプロジェクト審査会の様子

【評価と課題】

見守り合い活動サポート助成では、地域福祉課と作成した見守り合い活動リーフレットを活用して助成事業を通じて、見守り合いの地域づくりに取り組むことができました。また、東近江市地域福祉活動応援助成では、これまで申請のなかった新たな団体からの申請や、助成事業により新たな取組をはじめめる団体もあり、本会の求める東近江市に必要な取組が少しずつ増えています。さらに活動が広がるよう、事業の周知に努めます。

◇飛び出し人形設置支援

「子どもを事故から守る募金」を主な財源として飛び出し人形を製作・配布し、交通事故から子どもの命を守るための注意喚起として、飛び出し人形の設置を支援しました。



令和7年度		令和6年度	
78自治会	78体	80自治会	80体

【評価と課題】

配布予定のすべてを配布しましたが、配布終了後も何件かお問い合わせがある状況でした。今後も事業を継続し、市内の交通安全啓発に取り組むとともに、飛び出し人形の配布を通じて共同募金の啓発に取り組みます。

◇新小学校1年生交通安全啓発

登下校や友だちとの待ち合わせなど、ひとりで外出する機会が増える新小学校1年生へ、交通安全啓発を目的にとび太くんを使ったオリジナルノートの配布を行いました。「子どもを事故から守る募金」を財源にしています。

令和7年度		令和6年度	
816人	330,000円	910人	308,000円

【評価と課題】

布引小学校の入学式へお伺いし、直接お渡しした際には、子どもたちだけでなく保護者の方の喜んだ姿も見ることができました。また、お祝いメッセージに募金の紹介等も掲載し、共同募金の啓発に努めました。

◇子どもの遊び場遊具助成

子どもたちが安心して安全に遊べるよう遊具の新設・補修に助成を行いました。

	令和7年度		令和6年度	
新設	0件	0円	1件	150,000円
補修	2件	64,800円	5件	228,100円

【評価と課題】

子どもの遊び場遊具を補修・新設することで、子どもたちが楽しく安心安全に遊べる場づくりへの助成事業を行っておりますが、実情としては、昨年度より減数となりました。共同募金活動の周知も含め、各自治会への情報発信など様々な媒体を活用して引き続き周知を行います。

◇チャレンジ助成会議（ほっこりスマイルプロジェクト）

共同募金運動の再生の取組として、滋賀県共同募金会から助成を受け、地域における募金の使いみちの見える化を図ることを目的に、若手職員が中心となり検討会議を行い助成事業を実施しました。

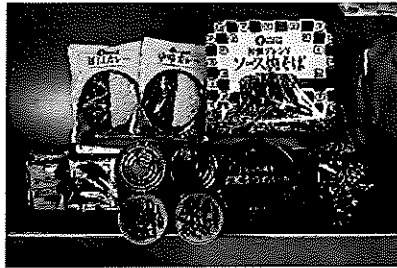
	期 日	検 討 事 項
第1回チャレンジ助成会議	令和7年7月3日	・令和7年度のスケジュールについて
第2回チャレンジ助成会議	令和7年9月26日	・案内先の検討
第3回チャレンジ助成会議	令和7年12月4日	・申請内容の確認
第4回チャレンジ助成会議	令和8年1月13日	・申請内容の確認、審査会のレイアウト
第5回チャレンジ助成会議	令和8年2月2日	・審査会当日のスケジュール確認

【評価と課題】

東近江市内の子ども・子育て世代を対象にした新しい活動を応援する助成であり、今まで関わりの少なかった若い世代の申請が多くみられました。また、立ち上げ支援の位置づけでもあるため、職員が伴走し活動をサポートしました。今後もたくさんの活動が進むよう、助成事業の周知に努めます。

◇生活困窮者への緊急支援活動助成

中央共同募金会の助成を受け、経済的に困窮されている方々に必要となる食料品等を確保し、配布に向けた準備態勢を整えました。



【評価と課題】

善意銀行事業で緊急食糧支援やその他食糧支援を行っていますが、継続的に食糧支援を必要とされる方の増加により食糧支援の件数は年々増加しています。本助成により食糧支援を必要とされる方への食糧を配布することができました。

6 サロン活動への支援

サロン活動の運営に関する相談対応や助成事業を実施し、サロン活動を支援しました。

◇サロン活動支援助成

	令和7年度	令和6年度
箇所数	173箇所	175箇所
回数	1,924回	1,773回
助成額	6,506,903円	6,302,277円

【評価と課題】

令和7年度は176箇所のサロンより助成金の申請がありましたが、実施実績は173箇所となっています。参加者数の減少やボランティアの高齢化による問題が多く見受けられ、参加者については入院や施設等の入所で参加者数が減っており、声掛けやチラシ配布など参加者の増加に向けて動いておられますが参加者は増えない状況です。担い手やボランティアについても高齢化や後任の不在が継続的に問題化しており、継続が危ぶまれるサロンもあります。サロン活動で培ってこられた地域のつながりや高齢者の居場所をなくさないように、サロン活動や集いの場づくりを続けていただけるよう支援を行います。

7 地区社会福祉協議会の活動支援

地区の福祉向上を目的に設けられている地区社会福祉協議会の活動支援として、各財源により助成事業を実施することで、地域福祉活動の推進を図りました。

財源	助成事業名	助成結果
会費	事務局運営助成事業	14地区 2,503,000円
共同募金	地域の未来を拓く助成事業	14地区 2,852,000円
	生活困窮問題に取り組む活動を応援する助成	2地区 105,000円
善意銀行	事業費助成事業	9地区 350,000円

【評価と課題】

令和5年度から助成事業を更に有効活用していただけるよう、共同募金が財源の助成事業を見直し、昨今の福祉課題に柔軟に対応した助成事業に取り組みました。

なお、地区社協は、地域福祉活動推進における重要なパートナーであり、引き続き地域活動への支援助成を行います。

8 善意銀行

「社会のために役立つことがしたい」という市民のみなさまの善意の気持ちで寄せられた金銭や物品をお預かりし、市内の福祉団体や施設、生活困窮世帯など支援を必要とされている方へ、善意の気持ちをお届けしました。

◇預託

<金銭預託>

	令和7年度		令和6年度	
一般寄附金	70件	2,728,639円	67件	1,223,384円
指定寄附金	23件	860,300円	22件	966,470円

<物品預託>

お米、食料品、衣類、タオル、リハビリパンツ、野菜等 300件



東近江市商工会女性部様



五峰興風会様

<リサイクル預託>

使用済み切手	64件	使用済みテレカ	3件
アルミ缶	38件	牛乳パック	4件
書き損じハガキ	6件	ペットボトルキャップ	98件
ベルマーク	39件		

◇預託金品等の払い出し

<金銭の払出> ・地区社協事業助成 9地区 383,900円
 ・指定助成金支出 18件 248,000円
 ・災害見舞金事業 7件(火災) 140,000円

<物品の払出> ・主な払出先 595件
 (生活困窮世帯、学童保育所、介護事業所、介護サービス利用者、こども食堂、作業所)

・緊急食料品給付事業 30世帯 53袋

<物品の貸出> ・車いす 191件
 ・その他の物品 300件

【評価と課題】

寄附金を活用した緊急食糧品給付事業、寄附物品などを必要とされている方にお渡しするなど、特に生活困窮者支援としての役割を担いました。また、子ども食堂への指定寄附(金銭、物品)など、より効果的で有効な寄附者と受領者のマッチングが行えるよう努めます。

9 食品アクセス確保緊急支援事業

コロナ禍を経て、経済的困窮状態から抜け出せないなど継続的な食糧支援を必要とする方が増える中、農林水産省「食品アクセス確保緊急支援事業」補助金を受け、食品ロスを削減するための食品や寄附による食品と食糧支援を必要な方とを結ぶ、東近江の現状に合ったフードドライブの仕組みを市民活動者と共に検討し、試行的な取組を行いました。

(1)食品アクセス確保緊急支援事業協議会（ハピもぐ食福会議）

	開催日	内容
第1回	令和7年8月21日	協議会の目的の共有、目指したいこと
第2回	令和7年9月19日	食を届けたい人のイメージの共有 ワールドカフェ懇談（①届けたい物②届け方③情報の届け方）
第3回	令和7年10月24日	ワールドカフェ懇談（①食品提供②協力者を増やすアイデア③その他）
第4回	令和7年11月25日	これまでの意見のまとめから方向性の共有
	令和7年12月～ 令和8年1月	協議会メンバーへの個別ヒアリング
第5回	令和8年3月5日	具体的な取組の検討

(2)プロジェクト会議

協議会の事務局として総務課、地域福祉課、相談支援課の3課職員で構成。協議会の開催計画や試行的な取組を推進しました。

◇プロジェクト会議の開催 14回

◇先進地（板橋区社協）とのWeb情報交換会 1回

◇先進地の取組見学（フードバンク彦根）

(3)研修等

食品アクセス確保緊急支援事業勉強会 4回

食品アクセス全国キャラバン 2回

フードバンク情報交換会 1回

NTTデータ研究所 ヒアリング 月1回

(4)試行的な取組

コストコからのロス食材の受入とマッチング：毎月第1・2・3金曜日（30回）

【評価と課題】

食糧支援を行う団体やボランティア、企業、市職員等を委員とした協議会を立ち上げ、協議した結果、食品のお届け方法は、食の支援を必要とする方とつながりのあるキーパーソンや団体からお届けすることを中心に進め、キーパーソンは食品の受入状況等に合わせて、徐々に広げていきます。また、寄附等の食品の在庫状況や活用の希望等の情報共有とお互いが協力について相談できるようオンラインによる情報発信ツールを活用することとなり、食品を集める仕組みについては、フードドライブボックスを市内5箇所に設置し、市民の皆さんから寄附食材を募ることとしました。協議会で協議することで、参画委員の強みを生かした仕組みの検討ができました。市民の食の支援への関心を高め、誰でも気軽に協力できる仕組みとなるよう、令和8年度も引き続き、試行的な取組を進めながら、食の支援の輪が、より拡大するよう進めま

10 東近江市社会福祉大会の実施

地域の福祉活動、市民活動、ボランティア活動などに携わる方が集い、より一層地域福祉の機運を高め、「共に安心して暮らせる福祉のまちづくり」の実現を目指し実施しました。大会では、社会福祉の増進・向上に多大な貢献をされた個人・団体等を表彰し、その功績を称えるとともに、多額の浄財を寄附、又は募金いただいた個人・企業・団体等に対しては感謝状の贈呈を行い、地域貢献に対する意識の啓発に努めました。

◇被表彰者選考委員会

日 時：令和7年9月18日（木）10時00分～

場 所：東近江市福祉センターハートピア

◇東近江市社会福祉大会の開催

日 時：令和7年11月15日（土）13時30分～

場 所：五個荘コミュニティセンター

参加者：275名

<式典>

- ・東近江市共同募金委員長感謝 19件(19団体)
- ・東近江市社協会長表彰 25件(18名・7団体)
- ・東近江市社協会長感謝 15件(3名・12団体)

<赤い羽根共同募金バッジ募金デザイン感謝>



社会福祉大会

赤い羽根共同募金バッジ募金デザイン感謝

【評価と課題】

地域福祉に携わる方が集う場として、地域福祉向上の機運を高めました。また、表彰状・感謝状贈呈式により、地域貢献の意識の向上にもつながっています。

11 児童センターの運営

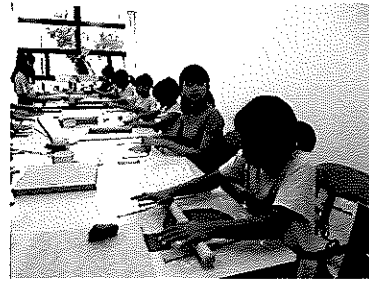
乳幼児の親子から小中高校生まで、幅広い年齢の子どもたちが遊べる環境を整え、遊びの場を提供し、遊びの指導を行い、仲間づくりや健やかに育ちあう安心安全な居場所づくりを行いました。またおもちゃの貸出等を通して子育てを支援し各種相談にも応じました。

事業名	開催回数・件数	参加者のべ人数
遊びを通じた日常的なかかわりの中での児童や保護者からの相談	74件(66件)	—
自由来館（遊びの提供、遊びの指導）	—	11,371人(2,517人)
陶芸教室	1回	12人
手芸教室	2回	19人
おりがみ教室	2回	14人
サイエンス教室	1回	6人
こども居場所づくり事業（夏休み）	24回	713人
（冬休み）	2回	49人
児童センターだより発行	2回	—
おもちゃの貸出	21件	—

（ ）内令和6年度



こども居場所づくり



陶芸教室

【評価と課題】

ハートピア改修工事により減少していた自由来館者数が回復し、改修工事前より大幅に増加となりました。清掃やおもちゃの消毒をこまめに行い、館内を清潔に保ち、利用者が気持ちよく利用できる環境を保全していきます。

居場所づくり事業については、保護者が就労等の理由により、面倒を見ることのできない児童の居場所として開催し、子どもたちは学校と異なる場所として楽しく健全に長期休暇を過ごすことができました。保護者からは次年度も実施してほしいとの声が多くありましたが、開催日数が少なく、参加者数が定員に満たない冬休みの事業については、次年度より開催を取りやめ、需要の大きい夏休みの事業について今後も継続して開催します。

1 2 母子・父子福祉センターの運営

ひとり親家庭、寡婦の方の自立と生活の安定、向上を図るため、講座等の開催を通じて、交流の場を提供し、困りごとや各種の相談にも応じました。

事業名	開催回数・件数	参加者のべ人数
ヨガ教室 (3回シリーズ)	3回	10人
親子手芸教室	1回	4人
親子料理教室	申込なしのため中止	—
ファイナンシャルプランナー個別相談会	1回	1人
家計管理について学ぼう	申込なしのため中止	—
受付対応、講座等の関わりの中での相談	76件(65件)	—

() 内令和6年度



親子手芸教室



趣味教室(ヨガ体験)

【評価と課題】

講座に参加いただいた方からは、満足の声をいただいています。講座内容によっては申込数が定員に満たないことがあるため、ひとり親家庭などが参加したいと思えるような講座について検討を行っていきます。

併せて母子父子福祉センターの存在を広く知ってもらい、気軽に利用できる場所であることを周知していきます。

1 3 老人福祉センターの運営

高齢者の健康増進や教養の向上、生きがいつくり、交流の場を提供するため、仲間づくりの場、居場所づくりとして講座を開催し、困りごとや各種の相談にも応じました。

事業名	開催回数	参加者のべ人数
自由来館（囲碁）	50回（9回）	142人（25人）
活動の場所提供（貸館）	183回（11回）	1,659人（33人）
健康体操教室（前期・後期）	12回	219人
手芸教室	1回	11人
趣味教室「ゆる筆文字とパステル」	1回	6人
寄せ植え教室	1回	11人
陶芸教室	2回	13人
金融講座	1回	3人
消費者講座	1回	9人

（ ）内令和6年度



健康体操教室



陶芸教室

【評価と課題】

ハートピア改修工事により減少していたサークル活動や貸館の利用が回復してきています。館内を清潔に保ち、利用者が気持ちよく利用できる環境を保全していきます。

講座について、参加いただいた方から満足の声をいただいております。特に健康体操教室については、人気の高い講座となっています。講座の参加者数の確保のため、老人福祉センターの存在を広く周知し、気軽に参加したいと思えるような講座を開催できるよう、情報収集を行い講座内容について検討を行ってまいります。

1 4 施設運営・管理

市施設（指定管理）・市社協所有施設を運営する上で、広く市民からのニーズに応え、安全安心に利用していただけるよう環境整備を行い、地域に開かれた施設として適切な運営管理を行いました。

(1) 東近江市福祉センターハートピアの指定管理・運営

◇貸館業務

総合的な福祉センターとして幅広い層の利用があり、貸館での来館をきっかけとした相談支援なども行いました。

・年間貸館利用者数 1,051件 のべ13,088名 $\left(\begin{array}{l} R6:107件 \text{ のべ}998名 \\ R5:749件 \text{ のべ}8,572名 \end{array} \right)$

◇維持管理業務

清掃や施設・設備点検等の日常巡視点検、保守管理及び簡易修繕を行い、施設の健全なる保全を図りました。

(2)市社協施設の維持管理・運営（5施設）

- ◇ゆうあいの家(永源寺：事務所・訪問介護・通所介護事業所)
- ◇ちやがゆの郷(能登川：認知症対応型通所介護事業所)
- ◇かじやの里の新兵衛さん(能登川：小規模多機能型居宅介護事業所)
- ◇せせらぎ(蒲生：事務所・訪問介護事業所)
- ◇デイサービスセンターあさひの(蒲生：通所介護事業所)

(3)行政財産使用施設

- ◇能登川障害福祉センター水車野園(能登川：事務所・訪問介護事業所)

1 5 地域における公益的な取組

地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法人の専門性や資源などを活かし、地域課題や地域のニーズに対応する社会貢献活動の推進と他社会福祉法人の社会貢献活動の推進支援を行いました。

(1)東近江市社協の地域貢献活動

- ・生活困窮者支援
- ・交通安全啓発のための街頭啓発 24回/年

(2)他社会福祉法人の地域貢献活動の支援

- ・社会貢献活動の相談対応・情報提供・マッチング
- ・社会福祉法人ネットワーク会議における企画会議への参画 11回
- ・社会福祉法人ネットワーク会議への参加 2回

1 6 市及び団体等との連携

東近江市及び各種団体の委員等として参画しました。

(1)東近江市の委員等

- ・介護認定審査会 委員
- ・障害認定審査会 委員
- ・図書館協議会 委員

(2)その他の団体の委員等

- ・社会福祉法人いこい福祉会 評議員
- ・社会福祉法人八身福祉会 評議員
- ・社会福祉法人あゆみ福祉会 評議員
- ・社会福祉法人くすのき会 評議員
- ・社会福祉法人花の木会 評議員
- ・NPO法人まちづくりネット東近江 理事
- ・人権のまちづくり協議会 女性部会委員
- ・東近江市勤労者互助会 評議員
- ・東近江市青少年育成市民会議八日市支部 委員

地域福祉課

＜地域福祉活動の推進＞

1 東近江市地域福祉活動計画

(1) 地域共生実現プロジェクトの開催

4課連携により『第3次地域福祉活動計画』を推進していくために、各課業務を通じて感じた課題や気付きを持ち寄り、「地域共生社会の実現」に向けて必要な取組を協議し、実践することを目的に開催。また、住民や医療福祉専門職等の声や思いから、今後の方向性や必要な取組を『第4次地域福祉活動計画』策定委員会へ提示し、協議いただくための作業を行いました。

	開催日	主な検討内容
第1回	令和7年4月16日(水)	不登校・ひきこもりに関する取組について 第4次地域福祉活動計画策定に向けて
第2回	令和7年6月13日(金)	不登校・ひきこもりに関する取組について 第4次地域福祉活動計画策定に向けて
第3回	令和7年7月9日(水)	不登校・ひきこもりに関する取組について 第4次活動計画第1回策定委員会について 第4次活動計画策定に伴う社協職員懇談会について
第4回	令和7年8月27日(水)	不登校・ひきこもりに関する取組について 第1回策定委員会・職員懇談会の声の整理
第5回	令和7年9月25日(木)	不登校・ひきこもりに関する取組について 第1回策定委員会・職員懇談会の声から課題整理
第6回	令和7年10月20日(月)	不登校・ひきこもりに関する取組について 地域の現状や課題、今後必要なことを整理
第7回	令和7年11月10日(月)	不登校・ひきこもりに関する取組について 第2回策定委員会の内容と持ち方について打合せ
第8回	令和7年12月24日(水)	第2回策定委員会のふりかえり 地域の現状や課題、今後必要なことを整理
第9回	令和8年1月16日(金)	第3回策定委員会の内容と持ち方について打合せ 地域の現状や課題、今後必要なことを整理
第10回	令和8年2月13日(金)	第3回策定委員の内容と持ち方について検討
第11回	令和8年3月19日(木)	第3回策定委員会での意見確認 活動計画の柱立てと骨子案について

参加者：各課主幹、係長、地域福祉課担当

(2) 第3次東近江市地域福祉活動計画の推進

不登校やひきこもりの当事者や家族の声や思いを聞き、市社協の役割やできることについて協議を重ねました。その中で「社会へ向けて理解を拡げる機会づくり」の取組として、多様性への理解を広げ、孤立や生きづらさを、特別な誰かの問題ではなく、「身近なこと」として感じてもらうきっかけづくりに努めました。

○不登校・ひきこもりの理解を広げる取組

・懇談会の開催

日時：5月27日(火) 13:30～15:30 / 場所：東近江市福祉センターハートピア

参加：不登校・ひきこもりに関する居場所づくりや相談に関わっておられる方々 5名

内容：社会的孤立を防ぎ、不登校やひきこもりなどへの理解を広げていく上での大事な視点や必要な取組について話し合う。

・図書館との協働企画

不登校やひきこもり、一人一人異なる特性への理解を拓げる本読み会「聴いて感じる 絵本の時間～みんなちがって、みんないい～」の開催

日時：3月11日（水）14：00～15：00

場所：蒲生図書館 多目的室 / 参加：15名

内容：図書館職員とボランティアによる読み語り
お茶を飲みながら分かち合い
図書館より絵本の紹介



【聴いて感じる 絵本の時間】

(3) 第4次東近江市地域福祉活動計画の策定

福祉や医療、商工、農業など広く福祉のまちづくりに関わっておられる方を、策定委員として委嘱し、策定委員会を開催。第4次活動計画の策定に向けて、東近江市の現状や課題の整理、今後の方向性や具体的な取組について協議を重ねました。

また、市社協全体で、計画策定を進めていくために方向性を確認し合い、各職員が日頃の業務等で感じている地域の現状や課題から、今後、必要なことを考えました。

○策定委員会の開催

	日時	内容	参加
第1回	7月25日（金） 19:00～21:00	策定委員委嘱 説明：第3次計画の推進と評価、第4次計画の進め方 懇談：第3次計画の推進と評価への感想 策定委員のみなさんの活動紹介	28名
第2回	11月17日（月） 19:00～21:00	懇談：地域の課題について	28名
第3回	2月25日（水） 19:00～21:00	懇談：地域の課題から必要な取組について	28名

○市社協職員キックオフミーティング

日時：4月21日（月）19：00～21：00 / 場所：東近江市福祉センターハートピア

講師：武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 社会福祉学科 教授 松端克文氏

佛教大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 金田喜弘氏

内容：第1部 講義「地域福祉とは、社協とは、地域福祉活動計画とは」
説明「第3次活動計画で進めてきたこと、第4次計画の策定について」

第2部 各地区別に懇談「地区住民福祉活動計画の策定への関わり」

参加：正規職員、嘱託職員 66名

○第4次地域福祉活動計画策定に伴う職員懇談会

日時：8月18日（月）18：45～20：45 / 場所：東近江市福祉センターハートピア

内容：グループ懇談「地域の現状と課題」、「東近江市がこうなったらいいな」

参加：正規職員 47名

(4) 「地区住民福祉活動計画」の推進支援

各地区で第3次計画を推進しながら、これまでの進捗をふりかえりました。各地区それぞれの方法で住民の声や思い等を聞き、第4次計画の策定に向けて協議を進めました。

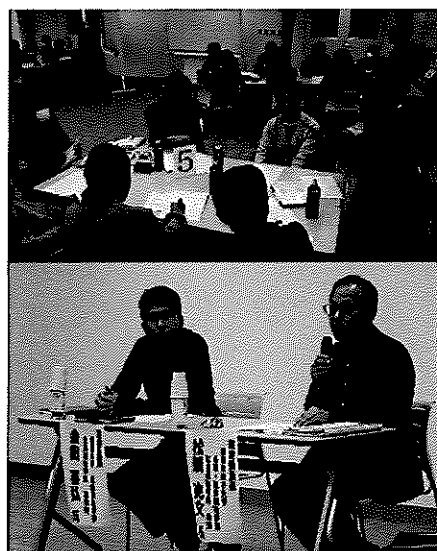
地区	事業・活動名	現在の主な進捗状況
平田	平田ふくしのまちプラン 企画推進委員会	カフェゆきのやま・ふれあい広場の開催、地域のお宝の取材、広報「ささえあいいね」の発行、ふくしのまちづくり懇談会・講演会の開催、中学生懇談会の開催
市辺	市辺地区住民福祉活動計画 推進会議	よってみてカフェこぼしの開催、おすそわけの日の開催、第2層協議体との合同会議の開催、中学生懇談会の開催

玉緒	玉緒地区社協役員会、玉緒地区住民福祉活動計画推進会議	たまおクラブの開催、更生保護女性会とコラボしおしゃべり会を開催、おしゃべりカフェの開催
御園	御園地区住民福祉推進会議	見守り合い啓発（冊子配布・みまもりカード発行など）、みその井戸端会議サロン交流会の共催、障がいのある方の家族との懇談会の開催、医療福祉の専門職との懇談会の開催、出張カフェの開催
建部	建部の地域づくりを考える会	福祉のまちづくりアンケート、子どもの居場所「たてべの寺小屋」実施、野菜のおすそわけ実施、「ささえあいついていいね まちのコンサート」の開催、出張みんなのカフェの開催
中野	なかのよいまち推進会議	なかのよいまち大 en 会の企画・開催（見守り合い・子どもとの懇談会）夏祭りアンケートの実施
八日市	まちつなぎ八日市	第4次計画策定に向けたアンケート、福祉サービス利用の理解を拓げる懇談会の共催、駐車場問題の解決に向けた第1層協議体との協働
南部	なんぶ未来会議	第4次計画策定に向けたアンケート、コンピスの運営、住民と専門職が知り合える懇談会共催、地域のお宝の取材・発信
永源寺	住めば都プラン推進会議	第4次計画策定に向けた声を聴く機会の実施、地区ボランティアセンターこだま企画・運営
五個荘	五個荘地区住民福祉会議	ありがとうメッセージのまとめ、自治会活動や福祉委員会の状況把握、防災と福祉の推進検討、身近な集いの場づくりの応援検討、中学生との懇談
愛東	愛東くらしの会議	第4次計画策定に伴う地域のお宝マップ作成、大好きなあいとうを未来へつなぐ研修会の開催と参加者の声を整理
湖東	湖東の支え合いを考えるプロジェクト	子どもと子育て世代へのアンケート、地域のお宝の見える化・情報発信
能登川	能登川地区住民福祉活動計画推進会議	第4次計画策定に向けた公共交通機関の利用状況を把握するアンケートの検討、子どもやその保護者の居場所づくりをされている所へのヒアリング、レコードカフェの開催と運営方法の検討
蒲生	蒲生あかね福祉の会	第4次計画策定に向けた声集め、集まった声を基に思考の整理マップ体験、声から蒲生地区を考える

【実績・成果】

第3次計画の推進においては、第4次計画策定に向けて課題整理を進める中で、社会的孤立や暮らしづらさを抱えた方への理解を広げる取組、人のつながりの中で暮らしが豊かになる支援を、これまでの地域づくりの取組と連動させながら進めていく方向性が見えてきました。その中で、「社会へ向けて理解を広げる機会づくり」の取組として、図書館と協働で試行的に「聴いて感じる絵本の時間」を開催。福祉を入口にせず、絵本を通じて多様性に対する理解を自然と深められる機会になりました。

第4次計画の策定プロセスにおいて、各地区の計画策定から聞いてきた住民等の声を基に3回の策定委員会において、課題整理、課題を解決していくために必要な取組について議論を重ね、その方向性が具体的に見えてきました。



【策定委員会】

2 重層的支援体制整備事業

(1)アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

地域福祉課にコーディネーター、相談支援課に相談員を配置。地域福祉課地区担当が様々な活動や会議等へ出向く中で支援が必要な人を把握。必要に応じてコーディネーターが支援機関へつなぎ、支援につながっていない人を中心に相談員が多機関と協働し伴走しています。

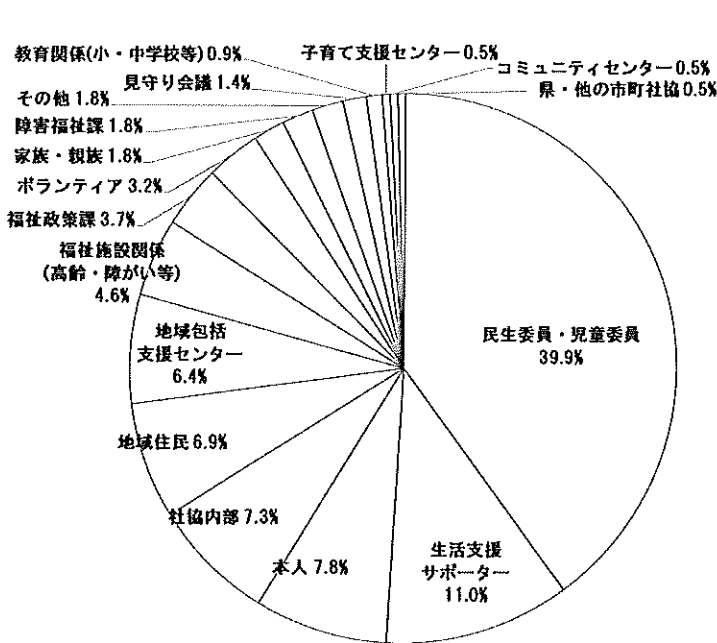
○地区担当による状況把握件数

主なアウトリーチ先	のべ件数
本人宅	12件
見守り会議	586件
生活支援サポーター	326件
地区ボランティアセンター	2件
民児協	58件
その他会議・活動など	27件
合計	1,011件

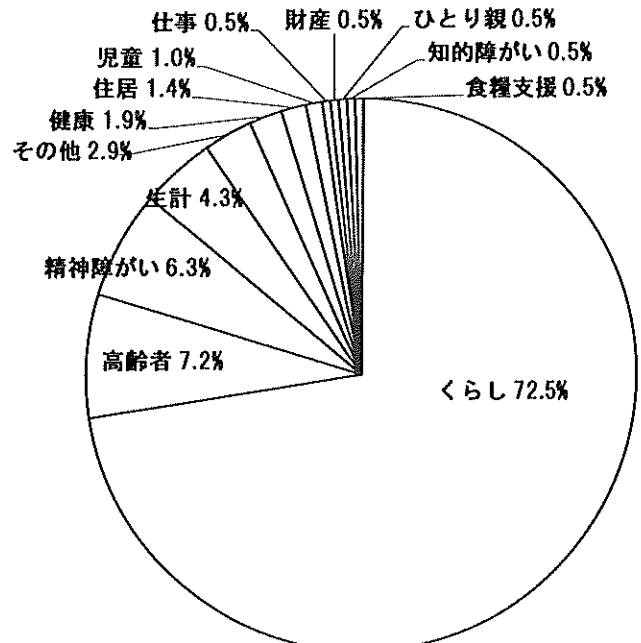
相談を待つのではなく、地域の活動や会議に出向くことで、支援が必要な方のべ1,011件の継続的な見守りと把握、必要に応じて相談につなぐことができました。

自治会域での見守り会議、地域で暮らしの困りごとを支える生活支援サポーターなど、住民主体の活動が増えたことにより、状況把握件数の割合が高くなっています。

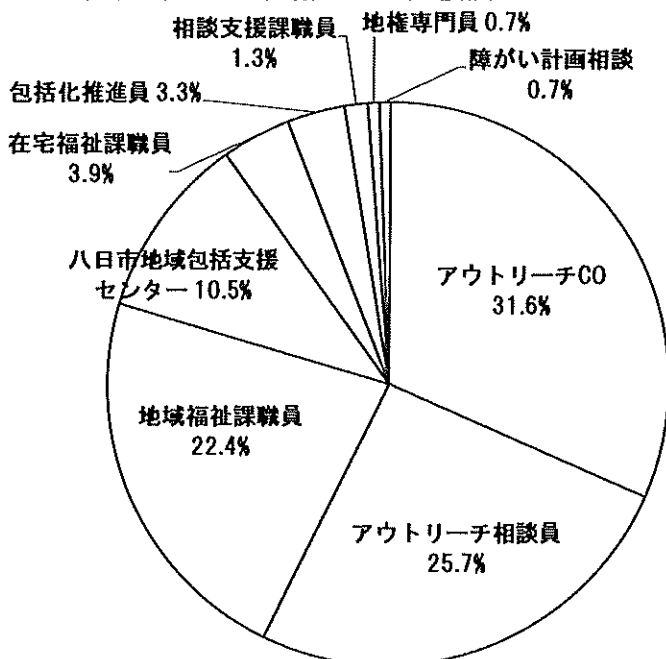
○地区担当による相談対応・連携先



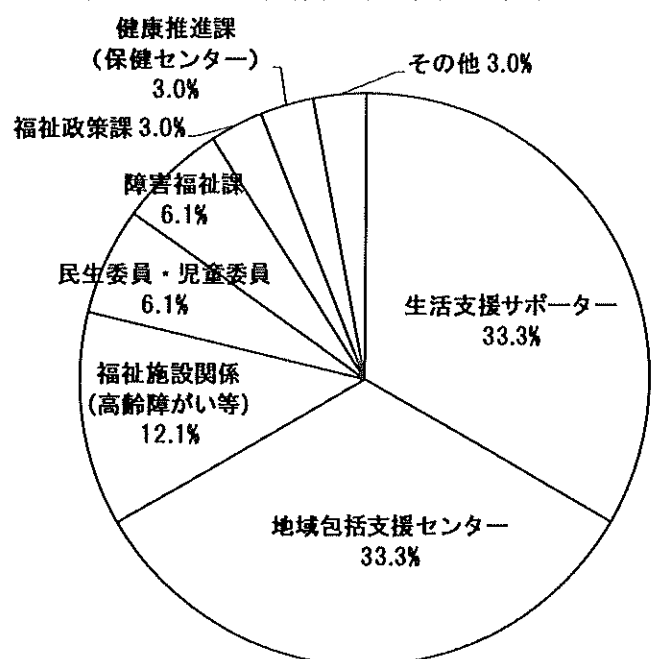
○地区担当による相談内容の内訳



○地区担当による社協内での支援調整



○地区担当による他機関等の紹介・引継ぎ



○アウトリーチコーディネーター・相談員による対応状況

- ・相談件数 実人数 28人 / のべ相談件数 346件
- ・相談件数の内訳(実人数) 伴走支援、支援調整 22件 / 相談をつなぎ終了した件数 6件
- ・相談のつなぎ先と連携した内訳件数(のべ件数)

市包括化推進員 31件 / 社協包括化推進員 15件 / 福祉政策課 31件 / 生活福祉課 7件
 地域包括支援センター 18件 / 障害福祉課 7件 / 保健センター 3件 / 健康推進課 1件
 県保健所 1件 / 居宅介護支援事業所 5件 / 障害計画相談 12件
 民生委員・児童委員 14件 / ボランティア 21件 / 地域住民など 7件

○プラン作成件数

新規件数 4件 / 継続件数 4件 / 終了件数 0件

○不登校・ひきこもり状態にある方の状況確認

市民児協と市社協が協働で実施している『社会福祉調査』により把握した情報と市各課で関わっている方の情報を基に、支援を受けておられないと思われる方を中心に、各民生委員・児童委員へ状況を聞き取りました。関わりの糸口を探り、必要な相談や支援につなぎました。

対象者総数：255件 / 状況確認件数 113件 / 相談につながった件数 89件

○会議等への参加

地区	内容	主なコーディネート内容
市	多機関協働推進会議	相談対応、会議運営支援、ケース共有 市担当者との事業運営協議
	重層的支援体制整備事業進捗会議	相談対応、資料準備、会議運営支援
	ひきこもり支援機関会議	相談対応、会議運営支援、ケース共有
	社協4課連携ケース検討会	ケース調整、会議運営

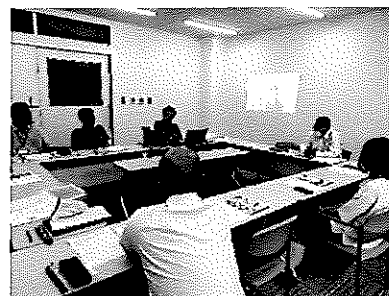
【実績・成果】

社協相談支援課と地域福祉課担当の連携を強化し、毎月ケースの進捗管理や支援の方向性を共有し、協働による事業実施と体制整備に努めました。その中で、市関係機関等の支援につながっていない人の相談、制度の狭間の困りごと等属性を問わない暮らしの課題を中心に、伴走による丁寧な関わりから、必要な支援につなぐことができました。

特に不登校やひきこもり状態にある方の状況確認を通じて、民生委員・児童委員と関わりの糸口を相談したことで、地域における見守り意識の向上につながり、必要な方を相談につなぐことができました。

(2) 福祉法人のネットワーク化による協働推進事業

「福祉法人が分野を超えてつながる」を目的に、互いに困った時に助け合い、一つの法人ではできないことも少しずつ力を出し合って協働できるネットワークの構築を進めました。各法人共通の「人材」「災害対応」「地域貢献」をテーマに取組を進めました。



【企画会議の様子】

○福祉法人ネットワーク企画会議の開催 11回

・主な検討内容

「つながる」の具体的なイメージを共有し、今後の方向性の検討

「びわこ学院大学プロジェクト科目」との協働を検討・実施

人材定着を目的とした市内法人合同研修(新任期)の検討

第10回福祉法人ネットワーク会議：意思決定支援研修会の企画

第11回福祉法人ネットワーク会議：BCPを活用した災害時対応研修会の企画

二五八まつりにおけるPR活動について企画

○福祉法人ネットワーク会議

- ・第10回 ～意思決定支援について語ろう～

日時：12月17日（水）13：30～15：30 / 場所：保健子育て複合施設ハピネス

内容：話題提供「意思決定支援について」社会福祉法人八起会 総施設長 中沼 孝博 氏
グループ懇談

参加：21名（社会福祉法人職員、市役所職員など）

- ・第11回 ～福祉法人のたすけあい（協働）による災害対応を目指して～

日時：2月3日（火）13：30～16：30 / 場所：東近江市福祉センターハートピア

内容：話題提供「東近江市の災害時の対応想定」 東近江市役所 福祉政策課

講演「過去の災害を踏まえ、BCPを見直そう～福祉法人のBCP＝地域のBCPと捉え、協働と受援を意識した計画・対策を考えよう～」

講師 佛教大学 専門職キャリアサポートセンター 後藤 至功 氏

グループ懇談「災害時に必要な備えと連携について」

参加：72名（社会福祉法人職員、NPO 法人職員、コミセン職員、市役所職員など）

【実績・成果】

本会が事務局を担ったことにより、企画会議での多面的な視点で議論を重ね、法人共通の課題から目指す方向性を見出すことができました。また、社会福祉法人の連携において、社協が担うコーディネート機能や地域の課題を見える化する役割の必要性が見えてきました。企画会議での議論を基に全体会を開催し、企画会議メンバーの主体的な運営を基に、分野や立場を超えたつながりのきっかけや学び合いの機会をつくることができました。



【福祉法人ネットワーク会議】

3 見守り合い・支え合いの推進と活動支援

ふだんの暮らしの中で気にかけて「おたがいさん」の意識が育まれ、困った時に「助けて」と言い合える、見守り・見守られを意識することが大切であることを広く啓発、見守り合いや支え合いの活動の推進、支援を行いました。ふだんの見守り合いをふりかえり、気付いたことを相談できる場、必要な支援につなぐ機会として「見守り会議」の開催支援を行いました。

(1)見守り会議の開催状況

○開催地域数 30箇所

うち令和7年度、新たに関わり、把握した見守り会議 10箇所

(2)見守り会議の開催支援

地区	活動名	実施主体	主な内容
御園	神田町つながり見守り会議	くらしの応援つながり	会議運営支援・個別相談対応
	御園町見守り会議	御園町見守り隊	会議運営支援・個別相談対応
	野村町見守り会議	野村町見守り隊	会議運営支援・個別相談対応
建部	建部日吉町見守り会議	建部日吉町	住民支え合いマップの相談
中野	宿見守り会議	宿ふれあいサロン	見守りが必要な方の情報共有
五個荘	五個荘山本町福祉委員会	五個荘山本町	見守りが必要な方の情報共有 個別相談対応など
	五個荘清水鼻町福祉委員会	五個荘清水鼻町	住民支え合いマップ演習
	五個荘川並町福祉委員会	五個荘川並町	見守りが必要な方の情報共有 個別相談対応など

愛東	北坂町福祉委員会	きたさかほん和か隊	見守りが必要な方の情報共有
湖東	平柳をよくする会	平柳をよくする会	見守りが必要な方の情報共有
能登川	桜ヶ丘福祉の会	桜ヶ丘自治会有志	人材確保に対する相談対応

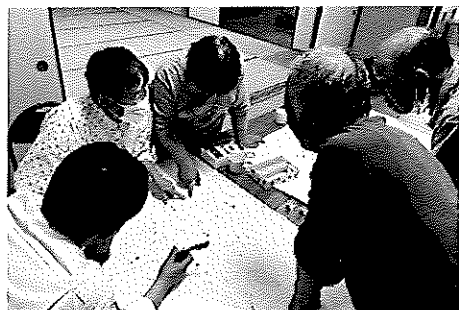
(3)見守り合い、支え合い活動の推進

地区	内容	主なコーディネート内容
御園	野村沖自治会 見守り会議準備委員会	見守り会議開催に向けて相談対応、運営支援
中野	なかのおすそわけプロジェクト	もろて～な市の企画・運営支援
五個荘	五個荘川並町 防災連携会議	自治会、清水苑、きぬがさと意見交換 防災訓練の運営支援
	ごかしょう安心サポート委員会	認知症行方不明者早期発見保護訓練の検討、 運営支援
愛東	愛東外町認知症声かけ訓練	訓練運営支援
	曾根町認知症声かけ訓練	訓練運営支援
能登川	垣見町自治会	災害時に介助を必要とする方の介助方法の勉強 会に向けた相談対応・調整
蒲生	長峰団地の見守り活動について	見守り合いサポート助成に関する相談、見守 り会議への流れの説明
	高齢者訪問	消防署職員と民生委員による訪問調整

【実績・成果】

暮らしの中での見守り合いと具体的な活動として見守り会議の啓発を、地区社協や第2層協議体との協働で推進できたことにより、小地域（自治会域）における意識高揚や活動展開につなげることができました。

また、地域福祉課地区担当が関わることにより、見守り合いから気になったことを放っておかず相談につないでもらえる人と地域を広げることができました。



【御園町見守り会議】

4 暮らしの支え合いサポーター養成と住民による生活支援活動への支援

身近な人を気づかい、暮らしの困りごとや人の変化に対する「気づきのアンテナを持つ人」、気になったことをほっておかない「お世話焼きさん」のような人を増やしていくための講座を開催しました。また、住民よりお互いさまの助け合い活動を支援しました。

(1)「暮らしの支え合いサポーター講座」の開催

	日時・内容	参加者
第1回	9月29日（月）19:00～21:00 「コミュニケーションについて～お助け上手を目指して～」 講師：龍谷大学 社会学部 現代福祉学科 教授 山田 容 氏	19人
第2回	10月08日（水）19:00～21:00 「高齢者・障がい者の暮らしを見つめる2人のつぶやき」 講師：龍谷大学 社会学部 非常勤講師 扇田 宗親 氏 社会福祉法人さわらび福祉会 かえでホーム管理者 大槻 敏明 氏	22人

第3回	10月15日(水) 19:00~21:00 「助けてと言い合える地域をめざして」 実践報告：ちょこっとサポートのとながわ/五個荘山本町福祉委員会	21人
第4回	10月22日(水) 19:00~21:00 「くらしの場での“気づき”と“私にできること”」 話題提供：社会福祉法人東近江市社会福祉協議会 地域福祉課	19人

会場：能登川コミュニティセンター

(2)生活支援サポーターの活動支援

地区	活動名	主な支援内容
市	くらしの支え合いサポーター講座	講座の企画・調整・案内、講師打合せ、講座開催
平田	チョイサポ平田	定例会運営支援、資料準備、総会運営支援、準備
市辺	くらしの支え合いサポーター 懇談会	懇談会運営支援、資料準備、サポーター活動開始に向けた調整・提案、これまでの意見整理
	ちょこっとサポート市辺	定例会運営支援、資料準備
御園	ちょこっとサポートみその	定例会運営支援、資料準備、個別相談対応
中野	たすけあい中野	定例会運営支援、資料準備、個別相談対応 総会準備・運営支援
八日市	あなたの応援隊ようかいち	定例会運営支援、資料準備、個別相談対応
永源寺	生活支援サポーター絆	定例会運営支援、資料準備、個別相談対応
五個荘	ほっとハート五個荘	定例会運営支援、資料準備、個別相談対応
湖東	湖東おたすけ隊	定例会運営支援、個別相談対応
能登川	ちょこっとサポートのとながわ	定例会運営支援、個別相談対応
蒲生	おたがいさん蒲生	定例会運営支援、資料準備、個別相談対応

【実績・成果】

市辺地区において、くらしの支え合いサポーター講座を開催した方々が懇談会を継続し、地域にあるくらしの困りごとを知り、住民としてできることを考え、今、必要な支え合いのカタチや方向性の検討を重ね、生活支援サポーターグループとしてプレ活動をスタートされることになりました。今年度、講座を開催した能登川地区においても、講座を受講された方々が自分たちのできることで、誰かの暮らしを豊かにする活動ができないか話し合いを重ねています。



【市辺地区のサポーター懇談会】

5 地域での集いの場・居場所づくり支援(相談対応)

(1)サロン活動への支援

○相談対応・支援件数 136件

○主な支援内容

サロンの立ち上げ、助成金の申請、サロンの内容、演芸等ボランティア調整、担い手についての相談など



【西方ふれあいサロン】

(2)その他集いの場、居場所づくりへの支援

○相談対応・支援件数 133件

○主な支援内容

子ども食堂や多世代が集うカフェの立ち上げ・運営支援、まちリハの内容、助成金の申請
麻雀サークルの立ち上げ、ボランティア調整、備品の貸出 など

6 福祉委員（福祉推進委員）との連携

地区	活動名	主な内容
市辺	福祉協力員会議	第4次計画策定に向けた聞き取り、今後の活動に向けた協議・検討、サロンの現状共有
五個荘	五個荘地区福祉委員会研修会	見守り合いの啓発と住民支え合いマップの演習
五個荘	五個荘山本町福祉委員会	コミュニティ食堂の開催に向けた相談対応
五個荘	五個荘川並町福祉委員会	見守りが必要な方の情報共有
五個荘	五個荘清水鼻町福祉委員会	住民支え合いマップの作成について相談
愛東	北坂町福祉委員会	活動状況の共有、見守が必要な方の情報共有

7 その他自治会活動支援（相談対応、活動調整など）

○相談対応・活動調整件数 44件

○主な支援内容

懇談会や研修会の企画と講師調整（防災・人権・認知症）

見守り会議、生活支援グループの立ち上げ

敬老会・夏祭りの催し など



【五個荘川並町福祉委員会】

8 住民が住民の困りごとを聞き、人や活動につなげる仕組みづくり

(1) 地区ボランティアセンターの設置・活動支援

地区	事業・活動名	現在の状況
平田	カフェゆきのやま・ふれあい広場	月1回開催、人財活躍の機会づくり
玉緒	たまおクラブ	月1回開催、更生保護女性会とのコラボ企画、おしゃべりカフェの開催
中野	中野地区ボランティアセンター	毎週木曜日開催、居場所づくり、人財活動の機会づくり
南部	なんぶみんなの居場所 コンピス	毎週火曜日開催、居場所づくり、住民の「やってみたい」活動の企画・実施
永源寺	住めば都プラン推進会議 地区ボランティアセンターこだま	毎月1回開催、居場所づくり、人財情報の蓄積と発信、活躍の機会づくり、相談しやすい居場所づくりの検討
五個荘	地区ボランティアセンター戦略会議 地区ボランティアセンター「三方よい処(仮)」プロジェクト	アドバイザー・六心会と立ち上げに向けた打合せ、プレ活動開催に向けて検討、地区に必要な機能と活動の検討
湖東	湖東いこいこ広場	毎週火曜日開催、居場所づくり、住民の得意を活かせる機会づくり
蒲生	わいが屋@せせらぎ	月1回(第3木曜)開催、居場所づくり、住民の得意を活かせる機会づくり

(2) 地区ボランティアセンター交流会の開催

日時 2月16日(月) 10:00~12:00

会場 東近江市福祉センターハートピア

内容 「地区ボラセンに関わる人が聞いておきたい60分のはなし」

講師 あそびの工房もくもく屋 田川 雅規 氏

参加 17名(各地区ボランティアセンター運営者)



【実績・成果】

五個荘地区において、佛教大学の金田喜弘准教授をアドバイザーに迎え、第2層協議体の事務局を担う社会福祉法人六心会職員と地区ボランティアセンターの立ち上げを進める戦略会議を実施。活動・人・情報の整理から今後の進め方を協議。地区社協へ働きかけたことによりプロジェクト会議の開催につながり、プレ活動をスタートすることになりました。同時に他地区へ地区ボランティアセンターの設置を進めていくために必要なプロセスを見出すことができました。


9 生活支援体制整備事業

市から委託を受け、市域及び地区域に協議体とコーディネーターを設置し、誰もが支援が必要かどうかに関わらず、心豊かに暮らし続けることができる地域づくりを進めています。

(1) 第1層協議体「いっそう元気！東近江」

○3つのプロジェクト会議における協議と取組

① 高齢男性の“はたらく”を通じた居場所づくりプロジェクト

プロジェクトの目的	
退職後、家で過ごすことが増え、人とのつながりが薄くなり、フレイルが進む傾向がある高齢男性を対象に、「はたらく＝役割と出番がある」を通して、自身も元気になれる場づくりを目指す。	
会議開催	プロジェクトでの主な協議内容
13回	<ul style="list-style-type: none"> ・「フレイルが進むまでの元気な高齢男性（70代）をターゲットに設定。 ・「おいしい」「楽しい」「おしゃれ」をキーワードに、スパイスカレーづくりを通じて、高齢男性の思いや興味を聞く機会の企画。 ・スパイスカレーづくりをふりかえり、より多くの高齢男性の暮らしや声を聞くためアンケート調査を企画。
プロジェクトの取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・「おしゃれなスパイスカレーに挑戦しよう」 <p>日時：10月14日（火）10:00～13:00（参加者：5名） 11月13日（木）10:00～13:00（参加者：4名） 12月08日（月）10:00～13:00（参加者：7名）</p> <p>場所：市辺コミュニティセンター 内容：カレーづくり、食べながら「やってみたいこと」の懇談。</p>	
	

② 福祉サービスの利用に対する理解を拡げるプロジェクト プロジェクト会議10回開催

プロジェクトの目的	
医療福祉の専門職が利用者宅を訪問する際に、車を駐車する場所がない「駐車場問題」の解決を通して、福祉サービス利用に対する理解と思いやりの気持ちを広げる。福祉サービスを利用しても、これまで培ってきた「つながりと暮らし」を継続できる地域づくりを目指す。	
会議開催	プロジェクトでの主な協議内容
10回	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢人口に対して介護認定者の割合が高く、駐車場に困っている声が多い八日市地区に働きかけ、第2層協議体「まちつなぎ八日市」との協働で進める。 ・福祉サービスの現状や駐車場問題について、医療福祉の専門職の声を地域住民に知ってもらい、互いの理解を広げる機会として懇談会を企画。 ・自治会や企業、商店への聞き取りを通じて、駐車場の仕組みとルールを検討。
プロジェクトの取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスの利用に対する理解を拡げる懇談会の開催 <p>日時：10月23日（木）10:00～13:00 / 場所：浜野会館 参加：38名（八日市地区の住民、医療福祉の専門職など） 内容：話題提供「駐車場に困っている人の声と医療福祉専門職の困り感」 / グループ懇談</p>	

- ・駐車場問題の解決に向けた仕組みづくり
課題の背景や解決に向けてプロジェクトで進めていることを共有し、自治会や企業、商店へ駐車場の協力をする上での注意事項や必要なことを聞き取り。

③多様な専門職の地域デビュープロジェクト

プロジェクトの目的	
多様な専門職が住民の暮らしぶりや活動を知り、住民が専門職の役割や業務を知ることができる機会をつくり、互いが知り合い、つながり合うために必要な機会やしかけを見出す。	
会議開催	プロジェクトでの主な協議内容
12回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療や福祉の専門職をターゲットに設定。福祉事業所が多い南部地区を舞台に、第2層協議体「なんぶ未来会議」と協働する。 ・事業所の後押しを基に、専門職が地域に出かけられる機会づくりについて検討 ・住民と専門職が互いのことを知り合える懇談会を企画。
プロジェクトの取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 地域住民と医療福祉の専門職が“知り合える”懇談会 日時：10月17日（金）19:00～21:00 / 場所：南部コミュニティセンター 参加：34名（南部地区の住民、医療福祉の専門職など） 内容：事業所紹介（3事業所） / グループ懇談 ・第2回 地域住民と医療福祉の専門職が“知り合える”懇談会 日時：02月20日（金）19:00～21:00 / 場所：南部コミュニティセンター 参加：48名（南部地区の住民、医療福祉の専門職など） 内容：事業所紹介（13事業所） / 活動紹介（なんぶ未来会議の取組） / グループ懇談 	

○第23回いっそう元気！東近江（全体会）の開催

日時：6月5日（木）18:30～20:30
場所：東近江市福祉センターハートピア
参加：32名
内容：3つのプロジェクトの進捗共有
ワールドカフェで意見交換



【第23回いっそう元気！東近江】

(2)図書館でフレイル予防の開催

フレイル予防を推進する「保健センター」、「市長寿福祉課」、「市地域包括支援センター」、「市社協在宅福祉課」、情報や人が集まる「図書館」の協働により企画会議（全5回）を開催。図書館を拠点にフレイル予防の意識を広げる場をつくりました。

	日時	場所	内容	参加者
第1回	06月21日（土）	湖東図書館	野菜を作って食べて元気になろう！	24人
第2回	09月04日（木）	能登川図書館	図書館でいきいき脳活！	41人
第3回	10月09日（木）	五個荘図書館	知って得する、お口の健康	12人
第4回	11月21日（金）	能登川図書館	元気に歩いて健康づくり	27人
第5回	11月28日（金）	永源寺図書館	政所茶でほうじ茶づくり	11人
第6回	01月28日（水）	八日市図書館	見て食べて知る健康のコツ	33人
第7回	02月20日（金）	蒲生図書館	図書館でフレイル予防・脳活おりがみ	26人
第8回	03月05日（木）	愛東図書館	歩いて脳トレ！スクエアステップ挑戦	15人

(3) 地域を元気にする協議体交流会の開催

日時：3月11日（水）18:00～20:15 / 場所：能登川コミュニティセンター

参加：52名（第1層、第2層協議体メンバー、市関係課職員、市社協職員）

内容：研修「おしゃべりから始まる！“あそび”のある地域活動」

講師 ハンズオン埼玉 西川 正 氏

報告「いっそう元気！東近江 各プロジェクト進捗共有」

グループ懇談「各プロジェクトの進捗共有に対する意見交換」

(4) 会議等の開催・参加

地区	内容	主なコーディネート内容
市	地域支え合いコーディネーター定例会 地域支え合い∞連携会議	市各課との地域づくりに関する情報共有、第1層・第2層の進捗共有
市	東近江市ケアマネ連携会議	打合せ、話題提供、懇談運営支援
市	中間就労共同体×いっそう元気！東近江交流会	相談対応、企画会議参加、話題提供 交流会運営支援
市	東近江市版できること持ち寄りワークショップ	相談対応、参加者調整
市	市・社協地区担当交流会	市担当課との打合せ、話題提供 交流会運営支援
市	若返り応援サポーター懇談会	社協担当課との打合せ、懇談会運営支援
市	マイナス5歳の健康づくり講座交流会	打合せ、運営支援
市	市福祉政策課担当者打合せ	事業進捗の共有、第2層運営業務の協議

(5) 第2層協議体の活動支援

○第2層協議体交流会の開催

・第1回

日時：7月4日（金）14:00～16:00 / 場所：東近江市福祉センターハートピア

参加：60人（第2層協議体メンバー、市関係課職員、市社協職員）

内容：事例発表（コーディネーター 関西学院大学 人間福祉学部 准教授 柴田 学 氏）

永源寺地区「地区ボランティアセンターこだまの立ち上げにむけた取組」

御園地区「見守り合いをテーマに進めてきた取組」

グループ懇談

・第2回

日時：12月9日（火）10:00～12:00 / 場所：東近江市福祉センターハートピア

参加：66人（第2層協議体メンバー、ケアマネジャー、市関係課職員、市社協職員）

内容：事例発表（コーディネーター 関西学院大学 人間福祉学部 准教授 柴田 学 氏）

南部地区「地区ボランティアセンターコンピスの1年間の歩み」

愛東地区「地域のお宝マップづくりと学生カフェ Fika の応援」

グループ懇談

○第2層協議体の状況

地区	協議体名	主な取組・協議内容
平田	平田ふくしのまちプラン 企画推進委員会	カフェゆきのやま・ふれあい広場開催、地域のお宝の 見える化取材、福祉のまちづくり懇談会の開催、あい さつ+ひと声運動、中学生懇談会の開催、地域のお宝 冊子の発行

市辺	市福みらい会議	住民福祉活動計画合同会議の開催、新コミセンを活用した居場所・仲間づくりに向けた検討、レコードカフェの開催、見守り合い・助け合い活動の推進、地域のお宝発信に向けた検討
玉緒	玉緒地区社協 三役会	たまおクラブの運営、福祉団体と意見交換、更生保護女性会とのコラボでおしゃべり会を開催、住民福祉活動計画推進会議の開催
御園	御園地区住民福祉推進会議	見守り合い啓発（冊子配布・みまもりカード等）、みその井戸端会議サロン交流会、障がいのある方の家族・福祉専門職との懇談会、出張カフェ検討・開催、見守り合いにつながる地域のお宝の見える化取材、命のバトンの普及・啓発、みんなの居場所づくり、外国籍住民への聞き取り
建部	建部の地域づくりを考える会	たてべの寺小屋の開催、野菜おすそわけの開催、みんなのかふえの開催、まちのコンサートの開催
中野	なかのよいまち推進会議	なかのよいまち大en会の開催、見守り合いの推進、福祉サービス利用における駐車場問題について協議、地域のお宝冊子の発行、中野地区ボランティアセンターの運営
八日市	まちつなぎ八日市	福祉サービス利用の理解を拡げる取組の協議、高齢男性の居場所づくり検討、いろいろエクササイズ、脳活教室、地域の福祉活動の情報発信
南部	なんぶ未来会議	なんぶみんなの居場所”コンピス”の運営と検討、地域のお宝発見に向けた協議、地域のお宝冊子の発行、住民と専門職が知り合える懇談会の開催（いっそう元気!東近江との共催）
永源寺	住めば都プラン推進会議	地区ボラセンこだまの運営、アンケート集計（教員、若者）
五個荘	五個荘地区住民福祉会議	ありがとうメッセージのまとめ、自治会イベントの共有・発信、集いの場の発信検討、人材を育もうチームの運営、場を創ろうチームの運営、仕組みを創ろうチームの運営
愛東	愛東くらしの会議	地域のお宝マップ作成、学生カフェ応援、通学応援バス、命のバトン救急情報用紙更新呼びかけと啓発活動、認知症声かけ訓練の検討、学生カフェの進捗共有、ありがとうの循環の説明、CLC オンライン地域のお宝発表会事例発表、見守り合いにつながる取組の推進、お宝の発信を目的とした研修会の開催
湖東	湖東の支え合いを考えるPJ	地域のお宝（集いの場）の情報発信（まち協広報）、図書館でのお宝（集いの場）展示
能登川	能登川地区住民福祉活動計画推進会議	公共交通機関の利用状況を把握するアンケート検討、市公共交通政策課の出前講座実施、子どもやその保護者の居場所へのヒアリング検討、地域の有志によるレコードカフェ運営に向けた検討、推進会議の母体の決定
蒲生	わいがや支え合い蒲生	わいが屋@せせらぎ・みんなの食堂の企画・運営、中学生が活躍できる地域づくりに向けて検討

【実績・成果】

第1層協議体「いっそう元気!東近江」で課題をテーマ化し、3つのプロジェクトにおいて、その課題解決に必要な仕組みづくりを進めるために協議を重ねてきました。各プロジェクトで試行

的な実践や見えてきたことを第2層協議体へ進捗報告により共有し、各区域における活動展開の協議のきっかけをつくることができました。

第2層協議体交流会において、各地区の特色ある実践を共有できたことで、その活動内容だけでなく本質的な必要性を各地区に持ち帰り、第2層協議体における新たな視点での協議・実践につなげることができました。

また、各プロジェクトにおける協議や実践、第2層交流会へのケアマネジャーの参加など、住民と医療福祉の専門職が互いの実践や役割を知り合い、強みと弱みを共有して、つながり合える機会をつくることができました。



【第2層協議体交流会】

10 福祉共育の推進

一人一人の違いを認め、理解し合うこと、また地域の良いところや課題について考えるなど、子どもから大人まで福祉や地域について学ぶ福祉共育に取り組みました。

<相談、問合せ、コーディネート>

158件（内訳：学校 139件、その他 19件）

<実施実績>

内容	箇所数	実施回数	のべ人数
高齢者学習（シニア体験）	16 箇所	16 回	703 人
高齢者学習（認知症学習）	4 箇所	4 回	205 人
高齢者学習（施設利用者との交流）	5 箇所	5 回	80 人
高齢者学習（高齢者との交流）	2 箇所	2 回	112 人
車椅子体験学習	11 箇所	15 回	601 人
視覚障がい学習（アイマスク体験）	15 箇所	22 回	646 人
視覚障がい学習（点字学習）	10 箇所	12 回	440 人
聴覚障がい学習（手話学習）	13 箇所	13 回	503 人
民生委員・児童委員との交流・役割紹介	2 箇所	2 回	645 人
キャリア学習（福祉・ヘルパーの仕事）	1 箇所	1 回	17 人
パラスポーツ（ボッチャなど）	3 箇所	3 回	106 人
福祉・地域共生について	6 箇所	6 回	372 人
まちの未来を考える学習	1 箇所	1 回	17 人
子ども110番協力者へ感謝を伝える会	1 箇所	1 回	83 人
東近江市福祉センターハートピア見学	1 箇所	1 回	23 人

(1) 社会福祉士現場実習の受入

○佛教大学 社会福祉学部 社会福祉学科 3学年 1名

実習期間：9月16日（火）～10月16日（木） 24日間 180時間

テーマ：住民主体の地域福祉活動の基盤をつくる社協の働きかけのプロセスを学ぶ

○中部学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科（通信教育課程） 1名

実習期間：3月10日（火）～3月19日（木） 8日間 62時間

テーマ：社協の役割、社会資源の開発・活用、多職種との連携

(2)住民懇談会の開催（関係機関、団体と協力して実施した事業）

月	地区	事業名・内容	対象	回数	人数
5	能登川	地区別福祉懇談会	自治会長、民生委員・児童委員、のたがわ福祉の会評議員、日赤奉仕団員等	3回	218人
6	永源寺	永源寺みらい会議	永源寺への転入者	1回	11人
7	永源寺	永源寺みらい会議	永源寺への転入者	1回	10人
11	永源寺	永源寺みらい会議	各種団体、永源寺への転入者	1回	63人

1.1 シニア世代の仲間づくり

仲間づくりを通して、シニア世代の方々の社会参加のきっかけとなる場所づくり、地域の活動に関心を持ってもらえるきっかけづくりを行いました。

○第17回シニア世代の仲間づくり講座の開催（参加者10名）

開催日	内容	開催日	内容
10月23日(水)	フレイルのお話	12月4日(木)	バスで出かけよう
11月6日(木)	グラウンドゴルフ	12月18日(木)	基礎からのスマホ講座
11月19日(水)	蕎麦うち		

【実績・成果】

講座参加者が減少傾向にある中、移動手段等の課題もあり、より身近な地域での開催が求められるようになりました。市内で潜在的な仲間づくりへのニーズが無くなった訳ではないものの、そのニーズに地域性があり、仲間づくりを応援できる存在が地域に必要なことから、今後はこれまでのノウハウを整理し、地区の地域づくりの中で必要な時に活用できるプログラムとして引継いでいきます。

1.2 ボランティア活動支援

○相談件数 419件

<相談件数 内訳>

- ・ボランティアをしたい等活動希望 26件
- ・ボランティアをお願いしたい 203件
- ・その他ボランティアに関する相談 190件



【ハートクリーンによる草刈り】

<ボランティア登録・把握数>

区分	登録数	登録人数	新規団体数	新規人数	登録外把握団体数	登録外把握人数
個人		24人		2人		5人
グループ	119団体	1,449人	0団体	0人	25団体	395人
合計	119団体	1,473人	0団体	2人	25団体	400人

<移送ボランティア活動支援>

支援内容	回数/件数
定例会出席	13回
活動調整、車両提供	65件

<布団乾燥ボランティア活動支援>

支援内容	回数/件数
活動調整、車両提供	11件

1.3 災害ボランティアセンターの設置・運営

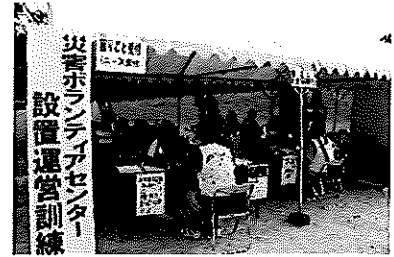
○東近江市総合防災訓練災害ボランティアセンター設置運営訓練

日時：9月7日（日）7:00～11:00

場所：おくのの運動公園

内容：ボランティアの受付・マッチング、ニーズ受付、
災害ボランティアセンター本部の運営

参加者：愛東地区民生委員・児童委員4名、愛東地区社協3名、
自治会20名、福祉事業所6名、社協職員16名



○会議等

内容	コーディネート内容	回数
市総合防災訓練 参加機関担当者会議	総合防災訓練に向けての協議、連携訓練調整	4回
愛東地区関係団体との打合せ	民児協・地区社協・福祉事業所へ依頼・説明	1回
訓練参加職員打合せ	災害ボランティアセンターの役割説明・調整	1回

1.4 子どもの学習・生活支援事業

生活困窮状態にある等、養育環境に課題を抱える家庭に育つ子どもに対し学習習慣の確立や基本的な生活習慣の習得に向けて支援を行うことにより、社会で自立して生きていく力を身につけ、貧困の連鎖を断ち切ることを目的に実施しました。

(1)開催実績と参加者数

		五個荘会場		南部会場		八日市会場	
開催回数		48	回	50	回	47	回
中学生	登録数	6	人	7	人	7	人
	のべ人数	144	人	206	人	164	人
高校生	登録数	4	人	2	人	13	人
	のべ人数	11	人	28	人	89	人
ボランティア	登録数	3	人	7	人	11	人
	のべ人数	61	人	72	人	155	人
関係者	行政	6	人	1	人	28	人
	市社協	107	人	126	人	133	人
	その他	5	人	3	人	7	人

(2)長期休暇中の自習室

○夏休み自習室

開催回数：4回（7/31、8/6、8/21、8/27）

参加者：中学生のべ8名、高校生のべ3名、ボランティアのべ1名

○冬休み自習室

開催回数：3回（12/25、12/26、1/5）

(3)社会性の育成や生活習慣の形成など生活面向上に向けた取組

○「3会場合同イベント」

日時：10月26日（日）10:00～15:00

場所：東近江市福祉センターハートピア

内容：対人関係を学ぶ講座やワークショップ・手巻き寿司

子どもたち企画のレクリエーション

参加：子ども9名、講師1名、ボランティア2名

○「クリスマス会」

日時：12月18日（木）、12月19日（金）、12月23日（火）

場所：各会場

内容：レクリエーション・クリスマスケーキを食べよう

参加：子ども19名、ボランティア10名

○「卒業パーティ」

日時：3月13日（金）、3月17日（火）、3月19日（木）

場所：各会場

内容：レクリエーション・卒業セレモニー

参加：子ども18名、ボランティア8名

(4)関係機関との連携会議

内容	内容	回数
事業検討会議	事業の方向性などを共有・検討	2回
情報共有会議	福祉政策課、学校教育課、生活福祉課、こども相談支援課との情報共有・支援検討	3回
情報共有会議	福祉政策課、学校教育課との情報共有・支援検討	3回
八日市南高校との情報共有会議	市福祉政策課、八日市南高校と情報共有	1回
SSW（スクールソーシャルワーカー）研修会	SSWと事業や子どもへの関わりについて情報交換	1回
新規会場開設に向けた打合せ	新規会場候補の八日市教習所との相談	2回

【実績・成果】

子どもたちが参加しやすい環境整備や参加への声かけ、スタッフの充実を図ったことで、年間のべ参加人数が昨年に比べ206名増えました。中学生の進路選択や受験への不安等に寄り添ったサポートにより、中学3年生12名全員が高校へ進学することができました。また、学習支援を必要としている、より多くの子どもたちが参加できるよう会場変更の検討を行い、本事業に対する理解をいただいた「八日市自動車教習所」で、令和8年4月から開設できることになりました。

1.5 障がい児サマーホリデー事業実施

特別支援学校や特別支援学級に通う子どもたちが、夏休みの期間、創作活動や遊びを通じて、たくさんの友だちや地域の方々とはふれあい、楽しく有意義な時間を過ごすことを支援し、子どもたちの仲間づくり、理解者づくりを目的に実施しました。

ボランティア、サマーの会（保護者の会）、指導員、行政、社協が互いに協力し、子どもたちの楽しい夏休みの居場所となりました。

(1)会議・準備・プレ活動等

○サマーの会：三役打合せ、サマーの会全体会（4回）

○指導員リーダー会議（6回）

○指導員研修：救命講習、参加児童の状況確認のため各学校へ見学

○プレサマホリ（1回 / 21名参加）

○事前説明会：参加希望者へ事業説明（1回）

○全体準備：行政連絡調整、担当者打合せ、資料作成、資材分け、プログラム講師打合せ

○会場準備：サマーの会・指導員打合せ、プログラム調整、直前オリエンテーション等の開催



【サマホリ会場交流】

(2)障がい（児）について理解を深める学習会の開催

日時：7月5日（土）10:00～12:00

場所：東近江市福祉センターハートピア

参加者：20名

内容：講義・感覚統合あそびの体験

「彼らが見て感じている世界を体験しよう」

講師：ええかお 発達支援コーチ 上野 良子 氏

保護者と参加者の交流タイム



【理解を深める学習会の様子】

(3)各会場の参加者数（各会場：夏休み中の14日間開催）

	八日市	永源寺・五個荘 愛東・湖東	能登川	蒲生	合計（R6）
参加児童登録者数	14人	19人	20人	18人	71人（75人）
児童生徒のべ	87人	141人	117人	115人	460人（437人）
ボランティアのべ	86人	165人	122人	111人	484人（477人）
保護者当番のべ	32人	44人	39人	36人	151人（148人）
指導員のべ	48人	56人	60人	69人	233人（206人）

(4)サマーホリデー大きな作品展示

①千鳥うちわ

日時：8月19日（火）～常設展示

場所：東近江市福祉センターハートピア

②大きな作品展

日時：9月8日（月）～10月14日（火）

場所：東近江市福祉センターハートピア



【大きな作品展】

【実績・成果】

今年度71名、のべ460名の参加があり、登録児童数は減少したものの、一人当たりの参加日数が増加。プレサマホリにより新たに9名の参加があり、サマホリを知ってもらいきっかけとなりました。会場交流会での保護者懇談、各会場での保護者当番が、日々子どもへの関わりや将来の進路などを相談し合える時間となり、保護者同士のつながりを深める機会になりました。

16 広報の発行

(1)広報誌の発行

発行日	広報名	部数	特集記事
6月15日	ひがしおうみし社協だより	23,350部	東近江市福祉センターハートピア いろいろな人が集まる！地域の拠点
9月15日	ひがしおうみし社協だより	23,350部	うちのデイサービスはここが推し！ 地域とのつながりを大切にしたい取組
12月15日	ひがしおうみし社協だより	23,350部	あれ？私は見守り合いしてたんや！～地域に 広がる見守り合いのカタチ～
3月15日	ひがしおうみし社協だより	23,350部	“地域の気になる”の解決にむけてチャレンジ 中！～地域を元気にする“協議体”いま、こんな ことに動いています～

(2) SNS (Facebook 投稿数)

月	件数	主な投稿内容
4	3 件	つどいの広場紹介、療育講演会、デイサービス
5	5 件	赤い羽根オリジナルバッチのデザイン募集、デイサービス、サマーホリデー指導員募集、民児協啓発活動 など
6	10 件	赤い羽根オリジナルバッチのデザイン投票、デイサービス、障がいについて理解を深める学習会、点字体験講座、ゆうあいの家奉仕作業 など
7	2 件	第2層協議体交流会、みその井戸端会議サロン交流会
8	6 件	東近江子どもサポーターズネットワーク三々五々、さぼてんの花親子で性教育、デイサービス、くらしの支え合いサポーター講座
9	9 件	なんぶみんなの居場所コンピス、寄附、シニア世代の仲間づくり応援王講座、デイサービス、サマホリ大きな作品点字、社会福祉大会 など
10	4 件	永源寺の集いの場、おしゃれなスパイスカレーに挑戦しよう、FoodDay 食料寄附の案内、地域住民と医療福祉の専門職が”知り合える”懇談会
11	4 件	FoodDay 開催のお知らせ、ちやがゆの郷干し柿づくり、赤い羽根バッチ募金デザイン表彰、福祉サービスの理解を拡げるPJ
12	8 件	東近江市社会福祉大会、ちやがゆの郷・ゆうあいの家日赤お礼、歩くから始まる仲間、八日市南小こども110番の家との顔の見える関係づくり
2	6 件	図書館でフレイル予防、NPO 法人喜里 懇談会、聴いて感じる絵本の時間ちやがゆの郷ラジオ体操と壁面づくり、地区ボランティアセンター交流会
3	3 件	プリズムまつり、東近江女性会寄附のお礼、ゆうあいの家通信
合計	60 件	

(3) 東近江ケーブルテレビ e-おうみ NOW!! 「のぞいてみよう社協」放送

放送日	内容
5月28日	児童センターの紹介
7月30日	おたがいさんの見守り合い
9月24日	共同募金助成事業について
11月26日	FoodDay 開催のお知らせ、八日市地域包括支援センターの紹介
1月28日	社協だからできる地域とのつながり
3月25日	地域住民と社協のつながり

17 14 地区の地域福祉活動推進支援

(1) 地区社会福祉協議会の活動支援と連携

○14 地区社会福祉協議会 交流会の開催

日時：6月13日（金）

場所：東近江市福祉センターハートピア

参加者：35名

内容：市社協より話題提供

「見守り合いと住民支え合いマップ」、グループ懇談



○各地区社会福祉協議会への活動支援（※各会議運営支援・相談対応は全地区共通）

地区	内容
平田	組織体制見直しに向けた相談、敬老会の企画調整
市辺	おすそわけの日の企画調整、給食ボランティア懇談会の開催支援
玉緒	地区ボランティアセンターたまおクラブの運営支援
御園	サロン交流会開催支援、地域の支え合いを拡げるつどい開催支援、いどばた喫茶調整障がいのある方の家族との懇談会の開催支援、視察研修受入調整
建部	たてべの福祉を語る場開催支援、みんなの居場所開催支援、サロン助成金の協議
中野	なかの福祉のまちづくり懇談会の開催支援、見守り合い推進支援、視察研修受入調整
八日市	研修会の企画・講師調整・開催支援
南部	研修会の企画・開催支援、視察研修の調整・同行、福祉を高める集い開催支援
永源寺	居場所づくり交流会の企画・開催支援、命のバトンの推進支援、おせち料理ゆうあい訪問実施支援
五個荘	福祉委員会研修の企画・開催支援・住民支え合いマップ演習、見守り訪問事業調整、命のバトン推進支援、小学校での世帯間交流の開催支援、広報編集支援
愛東	子ども服ゆずりあいコーナー（愛東秋フェスタ）運営支援・チラシ作成協力、大好きな愛東を未来へつなぐ研修会運営支援・発表者連絡調整、あいとうおたがいサンデー開催・運営支援、見守り給食の連絡調整
湖東	福祉懇談会の企画・開催支援、ひとり暮らしのつどい運営支援
能登川	地区別福祉懇談会の企画・開催支援、20周年記念事業実行委員協力、ふれあいふくしまつり回覧板プロジェクト開催支援、福祉と防災のまちづくり講演会の講師調整・運営支援、広報原稿作成
蒲生	福祉委員のつどい開催支援、いきいきあかねフェアブース運営支援、歳末お楽しみ会の運営支援、視察研修の調整・同行

【実績・成果】

14地区社協交流会では、昨年「見守り合い」をテーマに研修・交流し、今回は見守り合いを進める手法の一つである、『住民支え合いマップ』について演習を行い体験いただきました。参加者からは「自分の地区でも参考にしたい」「地区で見守り合いを進めていきたい」など前向きな声を聞くことができ、今後、見守り合いを広めていくきっかけとなりました。

交流会後、見守り合いの必要性の説明や住民支え合いマップの演習等を、各地区社協の研修として実施いただき、市社協と地区社協で見守り合いをともに推進していく機運が高まりました。

(2)まちづくり協議会との連携

地区	内容
平田	若者定住部会×地域活性化部会×平田まちプラン「ひらたパンまつり」運営支援
中野	もろて～な市の運営支援
八日市	つながりプロジェクト「はちのひカフェ」運営補助
南部	まちづくり会議（こどもカフェ引継）への参加、防災部会への参加、視察研修同行
永源寺	永源寺みらい会議・準備会運営支援・資料作成
能登川	のりがわ防災フェスタ 2025 実行委員協力・運営支援、災害ボランティアセンターの啓発

(3) 民生委員児童委員協議会との連携

○市民児協事務局の運営

地区	事業・活動名	コーディネート内容
市	民生委員児童委員の日活動強化週間一斉取組	相談対応、企画調整、教育委員会との調整、主任児童委員との打合せ、市広報掲載調整
市	三役会	会議運営支援、資料準備、各部会進捗報告
市	理事会	会議運営支援、資料準備、各部会進捗報告
市	監査	資料準備
市	総会	資料準備、講師調整、当日運営支援
市	民生委員・児童委員協力員制度	相談対応、今後の進め方を共有・具体的な運営について相談、市福祉政策課との協議
市	総務委員会	会議運営支援、資料準備、総会・会長副会長等情報交換会開催支援、拡大総務委員会運営支援
市	高齢者福祉部会	会議運営支援、資料準備、部会研修開催支援
市	児童福祉部会	会議運営支援、資料準備、相談対応、子どもの居場所の状況確認まとめ作業協力
市	障がい児者福祉部会	会議運営支援、資料準備、部会研修開催支援
市	主任児童委員部会	三役会・研修会・定例会運営支援、臨時部会運営支援、資料準備、にこにこ訪問活動支援、子どもの活動状況調査協力
市	広報委員会	会議運営支援、資料準備、取材調整、原稿作成
市	会長副会長等情報交換会	相談対応、資料準備、当日運営支援
市	地域保育総合研修	相談対応、企画調整、当日運営支援
市	全国児童委員リーダー研修	オンライン研修運営支援
市	小学校入学説明会 PR 活動	開催調整、資材準備、リーフレット翻訳
市	にこにこ訪問検討会	日程調整、会議運営支援、資料準備
市	民生委員・児童委員 委嘱退任式	相談対応、資材資料準備、当日運営支援

○各地区民児協への活動支援と連携

地区	主な内容
全地区	定例会資料準備・参加・運営支援、民協だより・社協だより説明、相談対応
平田・市辺	合同研修の講師調整・資料作成・当日運営支援
建部	視察研修の調整・当日運営支援
南部	こども 110 番と子どもたちをつなぐ運営支援
永源寺	事前会議で定例会打合せ、研修企画・開催支援
愛東	三役会で定例会打合せ、視察研修調整・運営支援、研修講師調整
湖東	三役会で定例会打合せ
能登川	代議員会で定例会打合せ、改選時の保険対応について相談対応、県外研修調整
蒲生	役員会で定例会打合せ、県外研修調整・運営支援、秋の防火訪問調整

(4) その他、各地区の団体等の連携

地区	事業・活動名	コーディネート内容
八日市8地区	八日市赤十字奉仕団	分団長会開催支援、活動支援、研修開催
八日市	延命大学	講師について相談対応
永源寺	チーム永源寺	医療・福祉専門職との情報交換・共有
永源寺	診療所を活用した居場所づくり	相談対応、資料作成、会議運営支援
五個荘	てんびん倶楽部	医療・福祉専門職との情報交換・共有
愛東	災害時施設連携協定にかかる会議	災害ボランティアセンターについて情報提供 社協 BCP の内容について情報提供
能登川	地域ケア個別会議	通所C利用者の卒業後の支援検討 地域の資源や状況を情報提供等
能登川	地区担当者情報共有会議	真寿会、保健センター地区担当と業務内容や課題などを情報共有
能登川	健康スポーツチャレンジ 2025	専門職との連絡調整、運営補助
能登川	赤十字奉仕団	総会・奉仕作業・研修の運営協力・活動支援
能登川	医療・福祉の連携会議	当日参加
能登川	有功会	講師調整

1.8 各団体、関係機関、市社協各課との連携

地区	事業・活動名	主なコーディネート内容
市	三方よし研究会 市民公開講座	相談対応・後援名義使用依頼調整
市	滋賀県地域福祉リーダー企画会議	企画会議参加依頼・調整
市	滋賀県社協フードパントリー	相談対応、打合せ、こども食堂への連絡調整
市	滋賀県社会福祉学会実行委員会	会議参加、実施協力
市	社会福祉大会	企画調整・記念講演講師調整・案内チラシ作成
市	食品アクセス推進協議会	フードドライブPJ参加、打合せ、協議会開催
市	介護予防活動支援事業連携会議	会議参加、情報共有
市	市民協働推進委員会	会議参加、運営協力、ヒアリング対応
市	わくわくコラボ村実行委員会	会議参加、運営協力
市	東近江子どもサポーターズネットワーク三々五々	カンファレンス参加、情報共有
市	滋賀県社協 著書「未来へつなぐ福祉滋賀」	相談対応、打合せ、原稿作成
市	難病応援センター	難病サロン運営相談、懇談会の運営支援
市	三方よし基金子ども・若者の支援に関する活動助成事業評価委員会	当日参加

市	こども福祉教育常任委員 勉強会	相談対応、打合せ、開催に向けた調整
市	村田製作所フードドライブ	相談対応、打合せ
建部	八日市北小学校 こどもの居場所等の連携体制検討協議会	当日参加

19 研修・話題提供など

(1) 研修

主催者	内容	場所	人数
農水省	食品アクセス総合対策事業勉強会	赤坂サンスカイルーム	1人
全社協	社会福祉主事任用資格スクーリング研修	中央福祉学院 (ロフォス湘南)	1人
全社協	令和7年度全国福祉教育推進員研修	ZOOM	1人
全社協	令和7年度生活支援コーディネーター研究協議会	ZOOM	6人
滋賀県社協	OJT 研修	滋賀県長寿社会福祉センター	2人
滋賀県社協	キャリアデザイン研修(新任期)	滋賀県長寿社会福祉センター	1人
滋賀県社協	キャリアデザイン研修(リターナー)	滋賀県長寿社会福祉センター	1人
滋賀県社協	災害ボランティアセンター基礎研修	滋賀県危機管理センター	1人
滋賀県社協	令和7年度滋賀県災害時要配慮者支援ネットワーク会議	ピアザ淡海	1人
滋賀県社協	コミュニティワーク基礎研修	滋賀県長寿社会福祉センター	1人
滋賀県社協	第1回滋賀県地域福祉担当者会議	滋賀県長寿社会福祉センター	4人
滋賀県社協	第2回滋賀県地域福祉担当者会議	ダイハツアリーナ	4人
滋賀県社協	第3回滋賀県地域福祉担当者会議	ダイハツアリーナ	8人
滋賀県社協	生活支援コーディネーター基礎研修	文化産業交流会館	1人
滋賀県社協	生活支援コーディネーター情報交換会	フェリエ南草津	1人
滋賀県社協	ひきこもり支援のための研修会	フェリエ南草津	2人
滋賀県社協	ひきこもり支援者交流会	COZY TOWN	1人
滋賀県社会福祉士会	社会福祉士実習指導者研修	滋賀県長寿社会福祉センター	1人
市健康推進課	ゲートキーパー市民養成講座	東近江市役所	1人

生活困窮者自立支援ネットワーク	第12回生活困窮者自立支援全国研究交流大会	びわ湖ホール、龍谷大学	3人
まちづくりネット	CANVA サロン	難病応援センター	1人
協同組合	全国協同の縁 交流会	わたむきホール（日野町）	2人
全国コミュニティライフサポートセンター	生活支援コーディネーターのゆるやかなネットワークづくりと交流企画について	ZOOM	2人
全国コミュニティライフサポートセンター	生活支援コーディネーター大座談会	ZOOM	2人
岩手県社協	生活支援相談員活動研究会	ZOOM	4人
近江八幡市社協	防災訓練説明会	近江八幡市ひまわり館	1人
地域福祉課	ファシリテーション研修	ハートピア	33人

(2) 講演・話題提供・視察受入等

依頼先	受入日時	内容
沖野団地 ふれあいいいきサロン	6月10日	話題提供「災害から考える日頃の暮らし」
日野町社協	6月17日	活動計画・重層事業・生活支援体制整備事業など 情報交換会
甲賀市社協	7月2日	ボランティア担当情報交換会
滋賀県社協	7月3日	滋賀の福祉人研修（新任期）コーディネート
全国コミュニティライフサポートセンター	7月18日	「2025 オンライン地域のお宝発表会」にて愛東地区 第2層協議体の取組と愛東のお宝事例発表
市包括支援センター ケアマネ連携会議	8月20日	話題提供「住民主体の活動ってなんだろう？ケアマネと地域のつながり」
中間的就労支援共同体	8月20日	話題提供「いっそう元気！東近江の取組紹介」
滋賀県社協 地域福祉担当者会議	2月6日	実践報告「市辺地区の見守り合い」
彦根市社協	3月25日	視察受入「地区ボランティアセンターこだまの取組」

相談支援課

1 職員の専門性を活かした相談支援

資格（社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・主任相談支援専門員・看護師）をもつ社協職員が、専門的な知識や技術を生かし、身近な相談窓口としてふだんの暮らしの中のあらゆる相談に応じました。

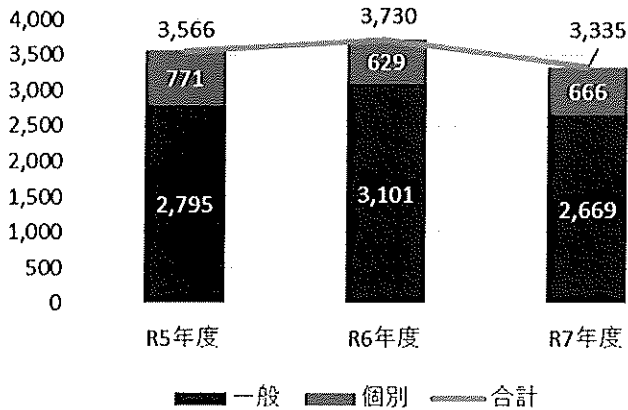
(1) 総合相談事業

地域生活における様々な困りごとや相談ごとに対し、社協職員の持つ専門的な知識や技術、多様な事業、関係機関や住民とのネットワークを生かし、身近な相談窓口として市民の相談に応じました。

また、個別支援各事業においては多角的な視点を持って支援が行えるよう、職員の資質向上に努めるとともに、ケース会議や事例検討を通じて包括的な相談支援を目指し、受け止めた相談に対する適切な情報提供や、行政・関係機関との速やかな連携により、市民に信頼感と親しみある地域の相談窓口となるよう努めました。

相談件数 (単位：件)

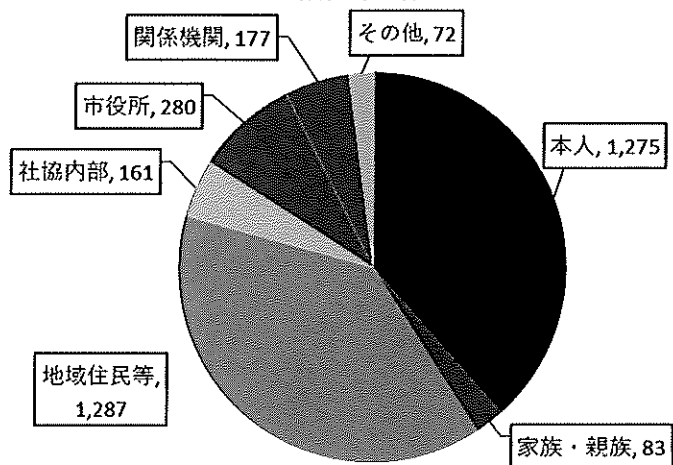
※特例貸付除く



相談経路 (単位：件)

本人	1,275
家族・親族	83
地域住民等	1,287
社協内部	161
市役所	280
関係機関	177
その他	72
合計	3,335

相談経路



結果 (単位:件) 重複有

解決	1,588
社協による相談の継続・支援	1,320
他機関の紹介・引継	364
その他	63



会費	1
善意銀行	25
共同募金運動	2
助成事業	10
ボランティア	90
関係団体支援	70
地域福祉活動 (自治会)	28
地域福祉活動 (地区)	33
地域福祉活動 (市域)	46
福祉共育	37
法律相談	9
資金相談	42
食糧支援	85
聞き取り、調整	711
その他	131



地域	217
市役所	106
他機関 (福祉施設・教育・医療)	14
その他	27

【評価と課題】

相談件数は横ばい、もしくはやや減少傾向にありますが、これは困り事が減少したことを意味するものではありません。相談内容が多様化し、個々の課題が分散していることが背景にあります。そのため、当窓口では引き続き多岐にわたる相談に対し、個別状況に応じた支援を行っています。

今後の見通しとして、社会情勢の不安定化や急激な物価高騰の影響により、生活に困窮する方が増加すると予想されます。こうした状況下では、従来の貸付制度や食糧支援のみでは十分に対応しきれない可能性が高まっています。今後も関係機関との連携を一層強化し、相談体制の協働的な構築と支援の充実を図るよう努めます。

(2) 法律相談

生活の中で起こる様々な困りごとに、法律的な立場から顧問弁護士が助言を行う無料法律相談を実施しました。事前に社協職員が相談者の困りごとを聞き取り、助言いただきたいポイントを整理した上で弁護士に伝えることで、限られた相談時間を有効に活用し解決につながるよう支援しました。

また、相談後も弁護士からの助言内容の確認など必要に応じて相談者のフォローを行いました。

相談件数 31 件

<相談内容>

借金・債務整理 7 件、相続・贈与 7 件、離婚(調停、養育費、慰謝料等) 5 件
 賃貸トラブル 1 件、財産管理 4 件、損害賠償 2 件、その他 5 件

*解決 23 件 (解決策、法的根拠がわかる、納得等)
 弁護士依頼 6 件 (債務整理等)
 社協相談 0 件 (家計相談等)
 外部紹介 1 件 (支援機関等)
 その他 1 件 (答え出ない、納得できない等)

【評価と課題】

離婚、相続・贈与など家族関係に関するものも多く、相談内容が複雑多様化してきています。また、借金・債務整理等の金銭に関わる相談も約半数を占めました。期間によって利用者数に変動があり、事業の周知方法も検討し、解決と必要な支援につなげることを事業の目的として継続していきます。

2 生活困窮者への生活支援

コロナ禍以降、減収や失業により生活再建の目途が立たない方、相談できるつながりがなく孤立状態にある方、債務整理など支出削減が必要な方、貸付や給付金を受けても償還が厳しい方などが増え、これまでの支援だけでは支えきれない多様な生活課題が現れてきています。多様な関係機関とともに生活が困難な状況にある方々の暮らしを守る支援を行いました。

(1) 家計改善支援事業の実施(委託)

経済的に困窮されている世帯が、困窮状態から脱し生活再建に向けた意欲と家計の管理能力を高められるよう、家計の見える化や課題整理、滞納や債務の整理、孤立を防ぐ関わりなど相談者にあわせた家計改善支援プランを作成し、伴走した相談支援を行いました。

地域資源との連携による社会参加や孤立防止など、地域での暮らしを少しでも豊かにし、生活意欲を高める取組を推進しました。

<家計改善支援事業 実績>

	プランあり	プランなし	合計
相談者数 実人数	22人	10人	32人
相談支援 件数	1,147件	151件	1,298件
相談終結 人数	11人	6人	17人

相談支援件数 (内訳)

	プランあり	プランなし	合計
面談	100件	7件	107件
訪問	51件	0件	51件
同行	74件	3件	77件
電話	93件	7件	100件
家計表・キャッシュフロー作成	124件	5件	129件
支援調整会議	24件	0件	24件
ケース会議	9件	0件	9件
支援者との連絡調整	672件	129件	801件
合計	1,147件	151件	1,298件

相談終結人数 (内訳)

	プランあり	プランなし	合計
自立(目標達成)	6人	2人	8人
生活保護へ移行	1人	1人	2人
他支援へ引継	2人	0人	2人
他市へ移行	0人	1人	1人
市家計改善支援員へ引継	0人	0人	0人
その他	2人	2人	4人
合計	11人	6人	17人

※自立（目標達成）の要因

- ・就労収入の増加により収支が安定
- ・家計管理意識の向上と課題整理

※その他の主な内容

- ・継続的な支援につながらない
- ・本人の希望により支援終了

【評価と課題】

相談者の生活状況や家計状況の「見える化」や課題整理を行いながら、自立に向けて継続的に支援を行いました。支払いの優先順位を立て、生計を維持しながら生活に支障のない範囲で債務や滞納の分納を行うことができました。また、相談者の家計管理能力が高まることで、生活意欲の向上にもつながりました。

一方で、相談者の背景や特性（精神疾患、知的障害依存症など）から、家計表やキャッシュフロー表の理解が難しい方もおられるため、支援が長期化する傾向が見られます。引き続きフォローアップしていきます。

(2)生活福祉資金・小口貸付資金事業

低所得者世帯（生活保護世帯）、高齢者世帯、障害者世帯等を対象とし、一時的に資金が必要となった際、民生委員・児童委員及び生活困窮者自立支援制度の相談窓口と連携し、生活再建に向けた支援を行いました。

離職や収入の減少などにより生活再建が困難な方に対し、貸付相談を入口として、自立相談支援や家計改善支援と連携しながら、伴走型の支援に努めました。

また、生活福祉資金での対応が困難な場合には、本会の小口貸付資金の活用や、食料支援、就労支援、参加支援等につなぐなど、経済面にとどまらない相談者の状況に応じた支援を行いました。

<生活福祉資金実績>

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比較
相談者数	290人	337人	339人	+2人
相談回数	496件	593件	748件	+155件
貸付件数	33件	20件	20件	±0件
貸付金額	17,499,000円	13,454,000円	16,955,340円	+3,501,340円

<貸付が必要になった理由>

○緊急小口資金

- ・次の収入までの生活費

○教育支援資金

- ・大学・専門学校への入学に必要な費用・学費
- ・高校入学に必要な費用

○福祉費

- ・生活保護世帯の家電購入
- ・障害者世帯の自家用車購入

<特例貸付フォローアップ支援事業>

令和5年度より、県社協が実施するフォローアップ支援事業において、調査員が借受人宅を訪問し、生活状況の聞き取り及び生活実態の把握を行っています。借受人の生活状況から償還が困難である場合には、本会において詳細を確認したうえで、償還の猶予や、非課税世帯に対する償還免除の手続きを行っています。特例貸付における対応件数は、ピーク時から年々減少していますが、償還猶予期限が到来する借受人に対しては、本会より事前に借受人の生活状況を聞き取り、償還可能・再猶予、又は免除の必要性を判断した上で各申請手続きを実施しました。

<参考：コロナ特例貸付利用実績> R2.3月～R4.9月迄

	総合計	
緊急小口資金	2,259人	(977)人
総合支援資金	2,161人	(1,013)人
総合支援資金(延長)	729人	(325)人
総合支援資金(再貸付)	1,171人	(504)人
合計	6,320人	(2,819)人
申請金額合計	2,554,670,000円	

()内は外国籍の方

<特例貸付 免除・償還等対応状況 令和7年度総数>

	件数	うち外国籍
償還	78件	57件
免除	85件	53件
相談	0件	0件
猶予	130件	92件
その他	41件	27件
合計	334件	229件

<小口貸付資金>

*貸付金額は貸付決定総額

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比較
相談者数	25人	120人	12人	-108人
相談件数	65件	148件	36件	-112件
貸付件数	16件	5件	4件	-1件
貸付金額	358,900円	90,900円	109,000円	+18,100円
償還件数	23件	14件	10件	-4件
償還金額	353,900円	178,000円	129,000円	-49,000円

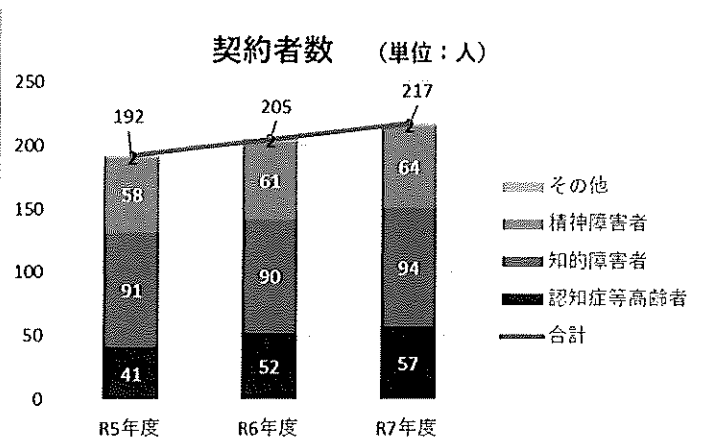
※令和7年度の貸付件数4件の借入理由は、生活保護初回受給までの生活費

【評価と課題】

特例貸付フォローアップ支援により、借受人の生活実態を把握したあとの支援は本会へつなげられています。相談の内容はほとんどが生活困窮によるものであり、さらなる貸付の希望が多くみられました。その一方で、水道光熱費・税金の滞納や、多額の負債により返済の目途が立たず、貸付に至らないケースが目立ちます。生活が成り立たない相談者に対しては、債務整理や自己破産などの法的支援へのつなぎの提案等を行い、経済的困窮や社会的孤立など、複合的な課題を抱える方が増えていることから、貸付相談を入口とし、その後の支援につなぐ対応を今後も継続していきます。

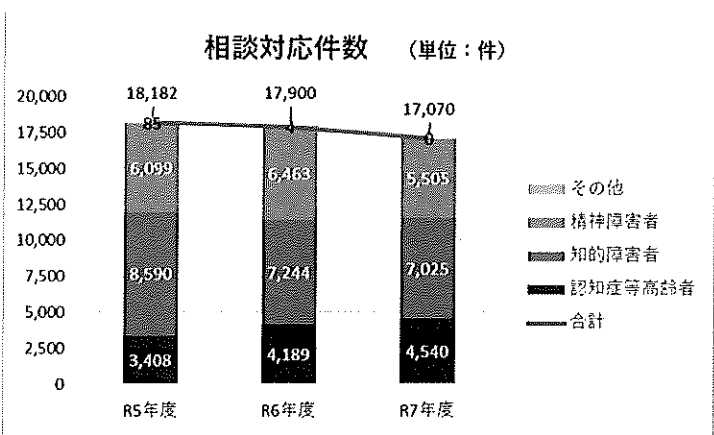
3 地域福祉権利擁護事業の実施

認知症や障害により判断能力が十分でない方が、住み慣れた地域でその人らしく自立した生活がおくれるよう、福祉サービスの利用に関する手続きや日常的な金銭の管理を中心とした支援を行いました。



令和7年度
新規契約者 25名
終了者 13名

令和7年度末
契約者数 217名中、
生活保護世帯 55名



お金の相談に限らず、日常生活や家族との関係、サービス利用に関する事等、多様な相談を受け止め、困った時やどうしてよいか迷う時の相談先として、利用者の不安の解消を図り生活の安定につなげることが出来ました。

<研修・会議等への参加>

(研修会)

- ・地域福祉権利擁護事業 生活支援員/新任職員研修 (6/16、6/27)
- ・地域福祉権利擁護事業 生活支援員/新任職員フォローアップ研修 (12/23)
- ・日常生活自立支援事業専門員実践力強化研修会 I (11/20)
- ・日常生活自立支援事業専門員実践力強化研修会現任者研修 (1/26、1/27)
- ・虐待防止ネットワーク協議会研修会 (7/10)

(会議)

- ・地域福祉権利擁護事業 専門員会議 (7/9、12/5)
- ・東近江市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク協議会代表者会議・実務責任者会議

【評価と課題】

新規利用相談は増加傾向であり、特に地域包括支援センターからの高齢者の利用に関する相談が多くありました。

新規利用相談のスムーズな受入対応ができるよう、毎週の専門員ミーティングで情報共有を行い、待機者をつくらぬよう努めました。また、一人でも多くの利用者を受け入れできるように、業務改善に努めました。

新規相談の中には、本人が利用意思を示されずに利用につながらないことや、支援を拒否されても一旦は関わりを継続しながら支援介入のタイミングを伺うケースもあり、利用契約に至るまでの関わりも必要となっています。

利用者の生活の変化に合わせ、意思決定支援を行い適切な権利擁護支援を提供するためには、相当の時間を要することから、新規相談の受入については、新たな人材確保が必要と考えます。

4 成年後見制度の利用支援

法的に権利を守る成年後見制度を周知し、必要な人が適切に利用できるよう支援を行いました。

- ①常設相談での成年後見に関する相談への対応（制度説明）
- ②地域福祉権利擁護事業利用者の後見申し立て支援、新規相談者への相談対応
- ③困窮者支援との連携や相談対応（制度説明）
- ④中核機関 よりそいケース検討会 出席（7/29、10/28、3/2）

5 障害者（児）相談支援事業の実施

障害ある方やご家族が抱えておられる困りごとを丁寧を受け止め、利用者の意志決定支援を基本に地域で生活していくための必要なサービス利用提供に努めました。一人一人の特性に合ったサービス等利用計画の作成と定期的なモニタリングを実施し、必要に応じた計画の見直しや関係機関・専門機関との連携による支援を行いました。

一般相談として福祉サービス利用支援以外の日常生活の相談にも対応し、地域でその人らしく安心して暮らせるように支援を行いました。

(1) 相談支援事業

5名の相談支援専門員が、障害ある本人や家族からの相談に訪問や同行などで応じ、必要な福祉サービスや社会資源の提案等を行うことで、それぞれの「ふだんの暮らし」が行えるよう支援しました。

- ・相談支援専門員初任者研修（2名・7日間参加）

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比較
相談件数	5,042	4,972	9,555	+4,583

(2) 指定特定相談支援事業

高次脳機能障害支援者研修、精神保健医療従事者研修などの専門研修受講を進め、より適切な支援が行えるよう取組みました。障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行する際の連携や、医療と福祉をつなぐ支援を行いました。

- ・高次脳機能障害支援者養成研修（1名・4日参加）
- ・精神保健医療業務従事者研修（1名・2日参加）

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比較
年度末契約者数	217	206	228	+22
計画作成数	166	162	178	+16
モニタリング数	574	532	586	+54

(3) 指定障害児相談支援事業

児童発達支援センターから学童期児童のケースを引継ぎ、入所施設からの地域移行や家族との環境調整を行い、今後の青年期での豊かな地域生活へつながる支援計画の作成を行いました。

- ・思春期精神保健従事者研修（4回開催参加）

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比較
年度末契約者数	20	24	26	+2
計画作成数	21	24	21	-3
モニタリング数	24	31	27	-4

(会議)

- ・東近江市相談支援事業所連携会議（5回開催参加）
- ・東近江市精神ケア会議（6回開催参加）
- ・東近江市総合支援協議会 子ども・相談支援部会参加（部会長として4回開催参加）

【評価と課題】

身体、精神、知的、難病など、それぞれの障害に合わせ、住み慣れた地域で本人が望む生活が送れるよう、継続した相談支援と計画作成を行いました。

令和7年度4月より八日市地域包括支援センター事業とも連携し、8050問題（高齢になった両親が、支援を受けず対応されていたケース）、多様な生活課題を抱えられている相談への初動対応受け入れをしています。相談員の担当ケース数も増加していることから、利用者一人一人に安心してもらえるような細やかな相談支援を提供するには、新たな人材確保も必要と考えます。

6 S&S(スマイル アンド スタンド)

様々な理由で仕事や作業所に行けない方や、社会に出るきっかけを探しておられる方に、社会参加の場を提供し、活動を通して人とのつながりを持つこと、自己有用感を高め自信を持てるように多様なプログラムを提供しました。

- ・S&S 参加者実数 25人
- ・S&S 活動状況 40回

プログラム	回数	のべ参加者数
赤い羽根共同募金 資材仕分け	2	9人
FoodDay 食糧仕分け	3	9人
二五八祭 ごみ分別	1	3人
J A折込作業	33	326人
湖東地区忠魂碑 除草作業	1	0人
合計	40	347人

◇企業での活動（通年）

- ・ヴィラジュニシムラ 箱折作業 参加者実数 6人
- ・あぐりステーション 出荷作業 参加者実数 3人

【評価と課題】

本事業の趣旨を理解いただいた地元企業から、チラシの折り込み作業や箱折り作業などの簡易な仕事の提供を受けています。参加者が作業への参加を通して生活リズムを整え、社会へ出ていくきっかけとなると同時に、安心して人と関われる居場所にもなっています。また、作業工賃を受け取ることで、就労への意欲を高める機会にもなっています。

生きづらさを抱えた人が安心して集い、社会とつながれる場として、今後も引き続き理解・協力いただける支援者や団体を増やしていくことが必要と考えます。

7 Food Dayによる‘食’の支援

生活にお困りの方が食の心配をせず安心して新年を迎えられるよう、年末に食糧等をお届けする「FoodDay」を開催しました。

J Aや商工会女性部等、企業・団体・地域からのご寄附をはじめ、多くの団体・市民の皆様からの善意によるご寄附をいただきました。また、民生委員・児童委員をはじめ、市や福祉事業所等の協力により、多くの方にお渡しすることができました。12月20日（土）には7年ぶりに炊き出しを実施し、S&Sのメンバーをはじめ、東近江市八日市赤十字奉仕団、東近江地区更生保護女性会、東近江保護区保護司会東近江地区会の皆様にご協力いただき、豚汁やおにぎりをお渡ししました。

◇Food Dayの開催

- 日時：令和7年12月20日（土）、12月22日（月）
- 場所：東近江市福祉センターハートピア、社協各事務所

寄附件数

食糧品等	57件
------	-----



配付件数

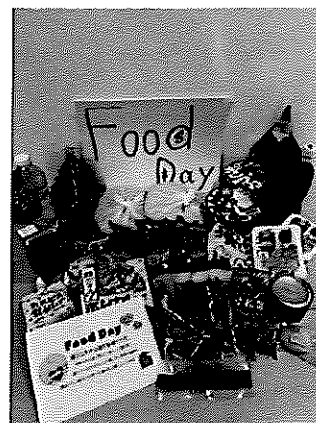
平田	7件	永源寺	10件
市辺	12件	五個荘	22件
玉緒	10件	愛東	11件
御園	13件	湖東	19件
建部	5件	能登川	38件
中野	30件	蒲生	11件
八日市	23件	不明	0件
南部	33件	合計	244件

【評価と課題】

失業・減収された方やひとり親家庭の方などの一時的あるいは継続した支援を求められる方に広く周知し、開催の回数を重ねてきたことで、心待ちにされている方もあり定着化しています。

また、日常生活や食にお困りの方が多くいることを広く周知する機会のひとつとなっており、たくさんの寄附物品の協力が得られています。

今後も社協の困窮者支援の一つとして取組んでいきたいと考えます。



8 重層的支援体制整備事業

(1) 多機関協働事業

複雑化・複合化した課題に的確に対応することを目的とし、制度ごとの相談機関を総合的にコーディネートし、チームとして包括的・総合的な相談体制を構築することを目的に実施しました。

◇相談支援課に包括化推進員を配置

◇多機関協働推進会議への参加

12回(4/24、5/29、6/26、7/22、8/26、9/24、10/16、11/17、12/15、1/19、2/16、3/12)

◇社協四課連携ケース検討会の開催

9回(6/20、7/15、8/8、9/17、10/15、11/11、12/11、2/17、3/17)

◇ひきこもり一斉電話相談への参画

2回(9/11、2/12)

◇ひきこもり家族教室サテライト会場の設置

1回(10/25)

【評価と課題】

複雑化・複合化した課題のある方の支援について、包括的に相談を受け止め、内部でアセスメントし、対応する体制を強化することができました。

また、課題を抱える方や家族が、地域内で孤立することを防ぎ、周囲の理解につなげる地域づくりをし、孤立の防止・解消に取り組むことも重要であると共有することができました。

令和8年度以降も、市や関係機関と連携し、途切れない支援を行う体制の整備を進め、地域との協働を大切にしながら基盤を強化します。

9 地域包括支援センター

令和7年4月より東近江市からの委託を受け、八日市地域包括支援センターを開設。八日市8地区エリアを対象に高齢者が抱える介護や生活に関する様々な相談に対応し、必要な支援へつなげました。第9期東近江市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の目標でもある「地域包括ケアシステムの推進により、誰もが生きがいを持ち、ともに支え合いながら、安心して暮らし続けることができるまちをつくる」の実現に向けて、介護・医療専門職との連携強化及び地域福祉の推進による見守り支えあいネットワークの充実に取り組みました。

(1) 総合相談支援業務

高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続できるよう、本人の意思を尊重しながら、どのような支援が必要かを把握し、地域における適切なサービス、機関及び制度の利用に繋げる等の支援を行いました。

<のべ相談件数>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
302	315	328	339	297	353	443	296	351	390	353	383	4,150

主な相談内容：介護保険新規申請・区分変更/サービス利用/権利擁護・成年後見/認知症 など

<80歳年齢到達者を対象とした実態把握調査>

八日市エリア調査対象者数：270人（うち、郵送による回答済人数 182人）

回答が得られなかった高齢者88人へ個別訪問調査を実施。

<地域包括支援センター相談窓口の周知・啓発>

コミセン講座や地域のサロンや会議の場、社協だより、スマイルネットなどを活用し、センターの役割や相談窓口の周知・啓発を行いました。

（講座等での啓発）

聖徳町サロン／なかのよいまち推進会議／建部コミセン講座／南部地区人権のまちづくり研修会／八日市地区社協研修会／御園地区民協定例会

（広報・メディアでの啓発）

ひがしおうみ社協だより／東近江スマイルネット

<相談員月例会への出席>

全11回（4/24、5/15、6/19、7/24、8/28、9/18、11/20、12/11、1/29、2/18、3/19）

(2) 権利擁護業務

自らの権利主張や権利行使が困難な状況にある高齢者が、地域において安心して尊厳のある生活を送ることができるよう、権利侵害の予防や権利行使の支援など、高齢者の生活の維持を図るための継続的及び専門的な観点から支援を行いました。

<高齢者虐待対応件数>

虐待通報受理件数	虐待認定件数	虐待対応最終結案件数
23	8	2

<高齢者虐待対応経過会議への参加>

全11回（5/13、6/10、7/8、8/12、9/9、10/14、11/11、12/11、1/13、2/10、3/10）

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、ケアマネジャー、主治医、地域の関係機関等と、地域における連携協働の体制づくりや地域のケアマネジャーに対する支援等を行いました。

<気づきの事例検討会への参加>

全11回…5/14、6/11、7/9、8/13、9/10、10/8、11/12、12/10、
1/14、2/18、3/11

<地域密着型サービス事業所等運営推進会議への出席>

グループホームひいらぎの里…5/30、7/24、9/19、11/21、1/16、3/12

しみんふくしの家八日市(グループホーム)…5/23、7/25、9/26、11/28、1/23、
3/27

しみんふくしの家八日市(小規模多機能)…5/20、7/15、9/16、11/18、1/20、
3/17

さくら苑…4/17、6/19、8/21、10/16、12/18、2/19

沖野原(グループホーム・小規模多機能)…4/16、6/18、8/20、10/15、12/17、
2/18

<居宅介護支援実施事業所等連携会議への出席>

全4回…5/20、8/19、11/18、2/17

(4)介護予防支援業務・介護予防ケアマネジメント業務

介護予防における予防給付の対象となる要支援者の心身の状況や環境を勘案し、介護予防サービス計画を作成し、適切な介護サービスが包括的、効果的に提供されるよう関係機関との連絡調整を行いました。また介護予防・生活支援サービス事業の対象者が、地域で自立した日常生活を送ることができるよう、介護保険サービスだけでなく様々な社会資源を積極的に活用し、支援を行いました。

<令和7年度末 ケアマネジメント件数>

直営： 163件

委託： 209件

(5)その他

地域包括支援センターの専門職としての資質向上を図るため、各種研修会に参加しました。

<研修への参加>

- ・令和7年度滋賀県地域ケア会議担当者研修会
- ・東近江圏域難病医療地域連携研修会
- ・令和7年度 地域包括支援センター職員基礎研修
- ・令和7年度 認知症地域支援推進員研修(新任者研修)
- ・身寄りのない高齢者や認知症患者への対応について
- ・みんなで考える意思決定支援
- ・2025 わかりやすい! 県民のための成年後見セミナー
- ・令和7年度 滋賀県高齢者虐待防止セミナー
- ・令和7年度 滋賀県認知症フォーラム
- ・令和7年度 東近江圏域認知症従事者研修会
- ・令和7年度 東近江圏域依存症支援ネットワーク連絡会
- ・契約から取り残されるクライアントの支援～地域で支える体制づくり～

【評価と課題】

八日市地域包括支援センター開設初年度でもあり、総合相談支援事業を軸にした相談対応に注力し、センター内でケース対応の経験値を積み上げていく1年となりました。また、地域包括支援センターの窓口周知を図る中で、地域包括支援センターの認知度がまだまだ低いと感じる場面もあり、今後も継続した周知が必要です。

相談内容によっては、身寄りのない高齢者や家族関係が複雑で身内からの支援が望めないケースもあり、対応に苦慮する場面もありました。元気なうちから、万が一に備えていただけるよう、市が発行する「みらいノート」の周知、活用を促し、高齢者の意思を尊重した支援ができるように努めます。

1 介護サービスの安定経営

(1) 会議・研修等

① 訪問介護事業会議（月1回の定例会議）

- ・ 管理者会議
- ・ サービス提供責任者会議（研修担当、サービス提供責任者業務担当）
- ・ 正規職員会議

② 通所介護系事業会議（月1回の定例会議）

- ・ 管理者会議
- ・ 生活相談員会議

③ 全体管理者会議（月1回の定例会議） 事業経営状況の把握や課題について

④ 委員会等の開催

- ・ 虐待防止委員会（全事業所年1回）
- ・ 身体拘束等の適正化委員会（訪問、通所年1回、小規模多機能型居宅介護事業年4回）
- ・ 感染症委員会（全事業所年2回）
各委員会の指針、研修・訓練実施、利用者支援、業務継続計画、虐待の芽チェックリスト実施について
- ・ 地域密着型事業所運営推進会議
デイサービスセンターゆうあいの家（年2回）
デイサービスセンターちやがゆの郷（年2回）
小規模多機能型居宅介護事業所かじやの里の新兵衛さん（年6回）

⑤ 研修（サービスの質の向上に関する内部研修会の開催及び外部研修受講（主なものを抜粋））

○ 内部研修

- ・ 避難誘導研修
- ・ 在宅福祉課、相談支援課計画相談合同研修
- ・ 訪問介護研修（接遇研修）
- ・ 通所介護研修（口腔ケア研修）
- ・ 各事業法定研修（月1回）



(避難誘導研修)

○ 外部研修（主なものを抜粋）

- ・ 一般救命講習研修
- ・ 身体拘束ゼロセミナー研修
- ・ 認知症介護実践リーダー研修
- ・ 全国社会福祉協議会 全国ヘルパー協議会
ヘルプの質を高めるオンラインサロン
- ・ 感染症対策の基本
- ・ BCPのブラッシュアップ研修
- ・ 介護技術研修（排泄介助）
- ・ 意思決定支援研修
- ・ 介護サービス事業所施設管理者研修



(計画相談合同研修)

(2) 地域や市内他事業所との協議・協働

① 能登川地域事業所連携会議（2月に1回）

能登川地域にある通所・小規模多機能型居宅介護事業所との情報共有等

② 地域行事等への職員派遣

期日	自治会等	内容
令和7年7月27日(日)	ピレッジハウス 五個荘	人権のまちづくり町別懇談会

令和7年8月16日(土)	NPO 法人 三方よし研究会	令和7年度東近江圏域介護職員初任者研修
令和7年11月24日(月)	東市辺自治会	認知症研修会及び認知症による徘徊者の声掛け訓練

③福祉共育

期日	対象	内容
令和7年6月17日(火)	愛東南小学校	訪問介護の仕事について

④介護実習生等の受入れ

- ・教職員免許法の特例に基づく「介護等体験」
 - デイサービスセンターゆうあいの家 2名
 - デイサービスセンターあさひの 1名
- ・介護福祉士養成実習
 - 「介護実習Ⅰ」
 - 小規模多機能型居宅介護事業所
かじやの里の新兵衛さん 1名
 - 「介護実習Ⅲ」
 - ヘルパーステーションハートピアサテライトゆうあいの家 2名
- ・職場体験学習（能登川中学校）
 - 小規模多機能型居宅介護事業所かじやの里の新兵衛さん 2名



(職場体験学習)

(3)各事業の運営状況

①全体総括の事業運営概況

利用者の皆様の身体機能の維持向上と、お一人お一人の生活ニーズに沿ったきめ細やかなサービス提供に努めてまいりました。ご利用者様がこれまでの人生で培ってこられた知識や経験を活かし、支援中の何気ない会話の中で、昔の手仕事や地域の歴史を教えていただくなど、ご利用者様の役割を感じていただけるよう支援を実施してきました。

令和7年度の介護事業運営は、全サービス合計で対前年同期比4.2%の減収。上半期実績では5.9%の減収状況から、下半期実績は2.4%の減収となりました。

安定的なサービス提供体制の維持と利用者数の回復が課題となっています。

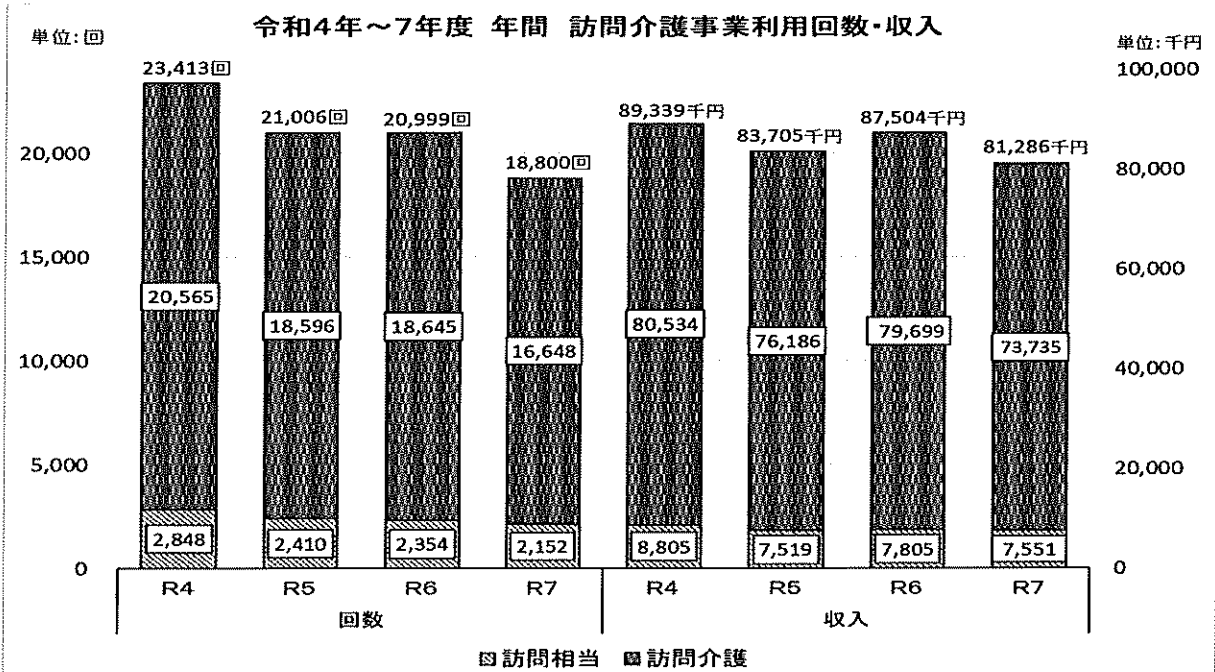
令和7年10月から、より安定したサービス提供体制を構築するため、訪問介護事業所の統合を進めました。これまで拠点が離れていたために特定の時間帯にニーズが集中し受け入れが困難な状況がありましたが、統合によって拠点間の調整を行うことができました。事業所統合に合わせ導入したタブレット端末により、ご利用者様の情報の即時共有を強化し、スムーズな情報共有ができました。また、非常勤職員の新たな勤務形態への移行にあっては、当初は混乱もありましたが、移行に伴い、「時間を有効に使えるようになった」との声も出ています。

訪問介護事業においては、訪問回数が前年比15.2%減少いたしました。収益の減少は7.1%に抑えることができました。また、居宅介護事業は利用回数が10.9%減と大きく落ち込みましたが、収益の減少は3.0%に抑えることができました。要因としては、昨今の地域内での他法人による新規事業所立ち上げなどの影響も考えられる一方、サービス内容では、単なる生活の代行ではなく、ご本人が「自分でできること」を大切にする身体介護を軸に据え、ADL(日常生活動作)の維持・向上に注力いたしました。訪問介護では、サービス内容を提案し、『身体生活』や『身体介護』が前年比18.6%増、居宅介護でも家事援助から専門的な身体介護へのシフトが進み、よりお一人お一人の心身の状態に寄り添う支援へとつながっています。

通所介護事業所(ゆうあいの家)については、本年4月より通常規模通所介護事業所から地域密着型へ移行しました。通所介護全体で利用回数が8.8%と落ち込みましたが収益は2.4%減に抑えることができました。個別機能訓練加算及び口腔・栄養スクリーニング加算を新たに取得することで、お一人お一人の身体状況に合わせた個別プログラムを強化し、ご利用者様それぞれのニーズに応じたサービス提供を行いました。

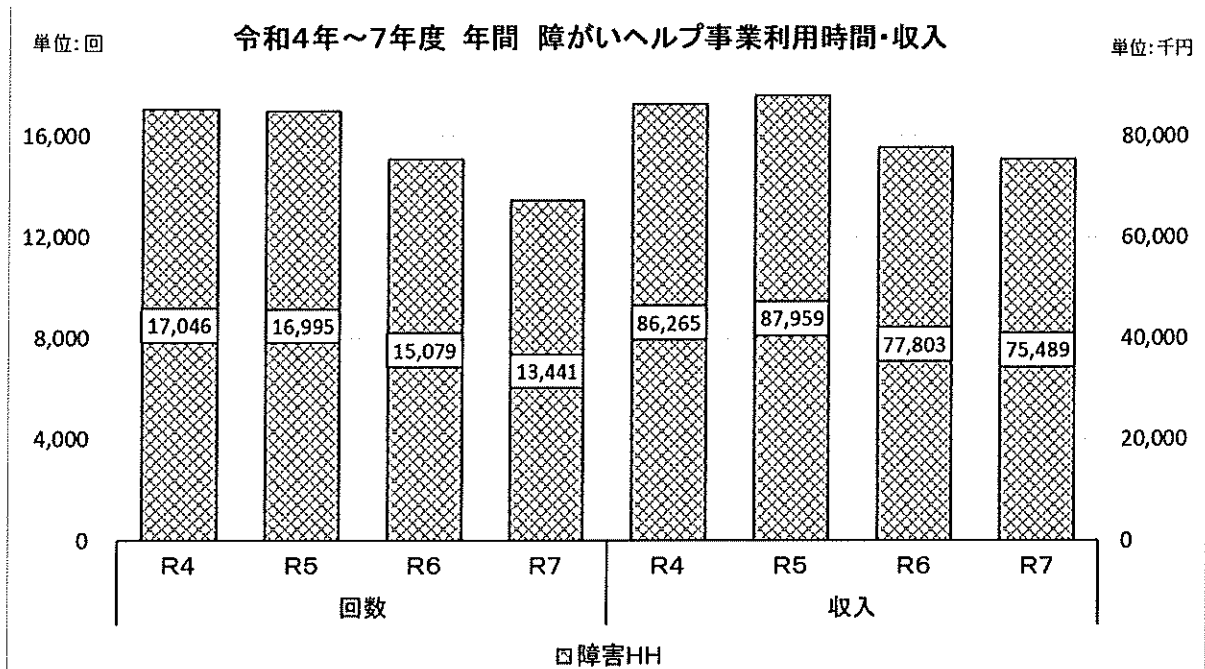
訪問介護と認知症対応型通所介護のケアマネジャーへのアンケート調査を実施し、サービス内容の見直しを行いました。また、地域のケアマネジャーや相談支援専門員との連携強化に努めました。『事業所通信』を定期的に発行し、事業所の様子を身近に感じていただくとともに、暮らしに役立つ情報をお伝えしています。

②訪問介護・訪問介護相当サービス事業（せせらぎ・なごみ・ゆうあいの家）



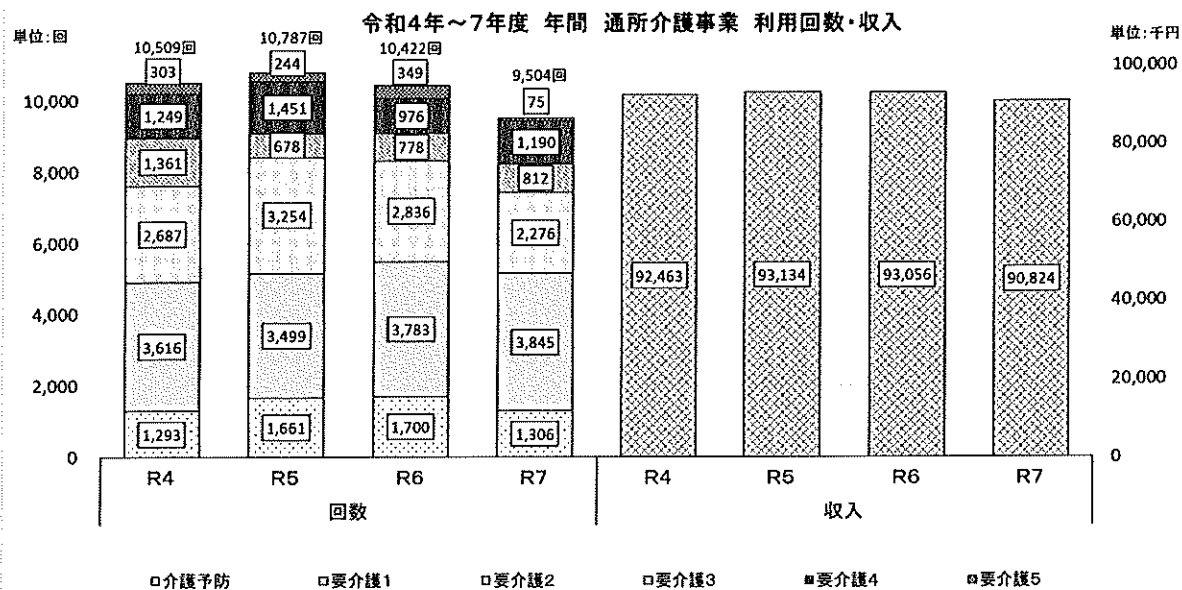
・令和6年度（回数：20,999回、収入87,504千円）と令和7年度（回数：18,800回、収入81,286千円）を比較すると利用回数2,199回の減少、6,218千円の減収。

③居宅介護（障がいホームヘルプ）事業（せせらぎ・なごみ・ゆうあいの家）



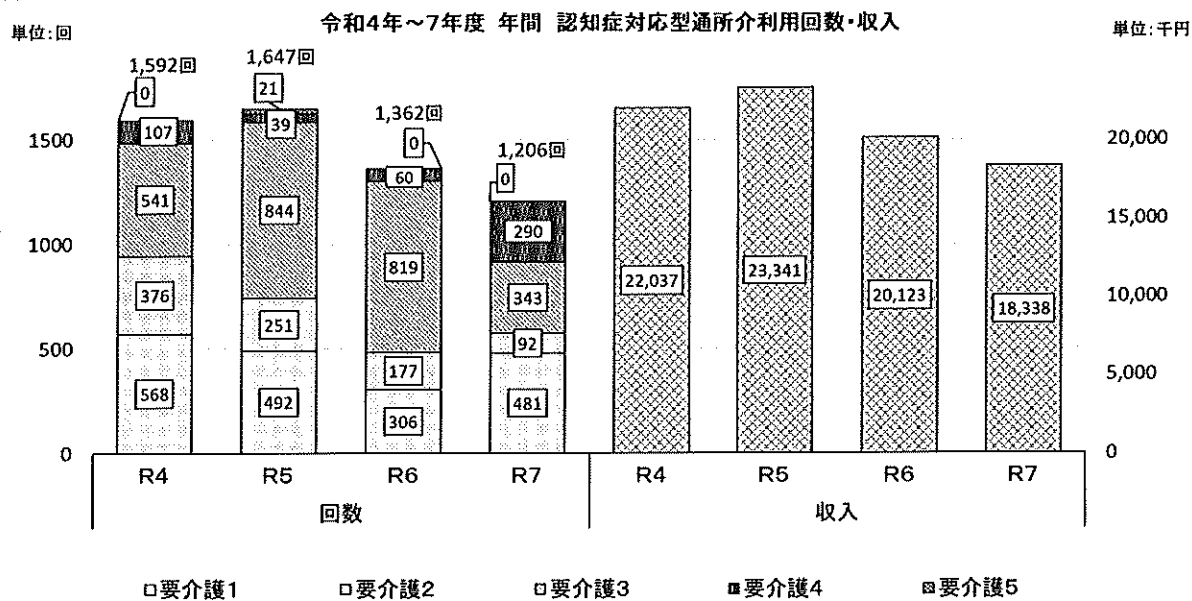
・令和6年度（回数：15,079回、収入77,803千円）と令和7年度（回数：13,441回、収入75,489千円）を比較すると利用回数1,638回の減少、2,314千円の減収。

④通所介護・予防通所介護事業（あさひの・ゆうあいの家）



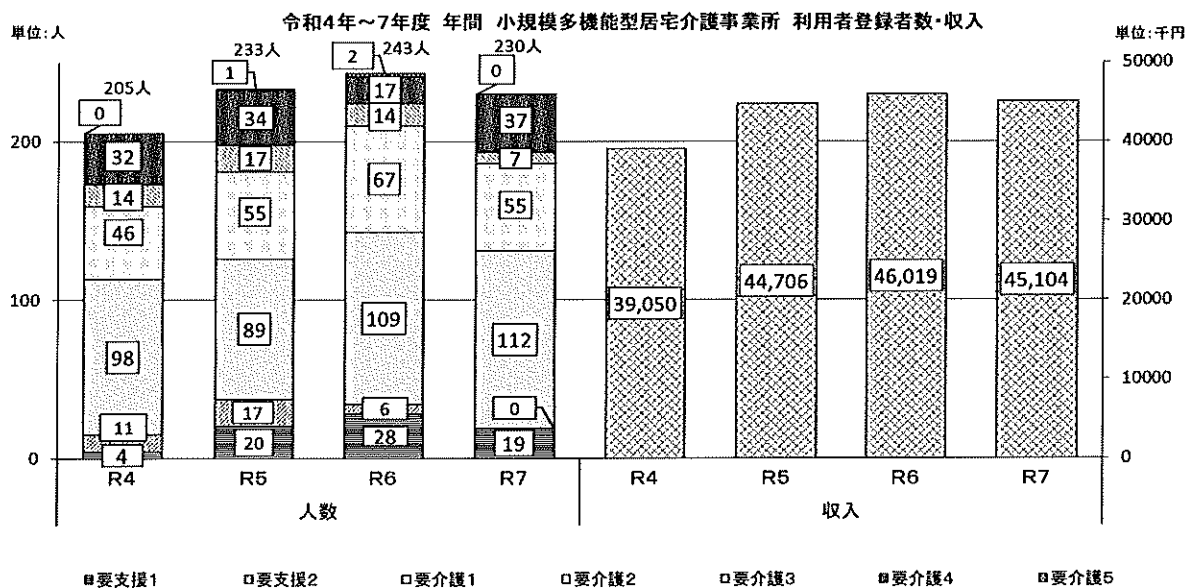
・令和6年度（回数：10,422回、収入93,056千円）と令和7年度（回数：9,504回、収入90,824千円）を比較すると利用回数918回の減少、2,232千円の減収。

⑤認知症対応型通所介護事業（ちやがゆの郷）



・令和6年度（回数：1,362回、収入20,123千円）と令和7年度（回数：1,206回、収入18,338千円）を比較すると利用回数156回の減少、1,785千円の減収。

⑥小規模多機能型居宅介護（介護予防）事業（かじやの里の新兵衛さん）



- ・令和6年度（登録者数：243名、収入46,019千円）と令和7年度（登録者数：230名、収入45,104千円）を比較すると登録者数13人の減少、915千円の減収。

(4)各事業の取組

①ケアマネジャーへのアンケート調査（回答：訪問介護66名、認知症対応型通所介護29名）

今後の在宅サービスのニーズ把握現状のサービスを客観的に見つめ直し、潜在的なニーズ等の把握のため実施しました。これらの意見等を真摯に受け止め、次年度はさらなる満足度の向上と、地域から指名される事業所づくりに取り組みます。

○訪問介護の主な意見

- ・統合後の事務連絡や相談のしやすさについては、「以前と変わらない」との回答が多数を占める一方、一部で「連絡のつきにくさ」を感じるとの評価。
- ・ヘルパーによる報告・連絡や、サービス提供の丁寧さについては、「満足」「概ね満足」が約8割以上の評価。
- ・今後さらに期待される役割として、「早朝・夜間、土日等の柔軟な調整」や「自費サービスを含めた暮らしの困りごとへの柔軟さ」、「認知症や看取り等への専門的な対応」が上位を占めました。
- ・自由記述では、夜間対応の困難さや、スタッフによる対応のバラつきへのご指摘、また「社協ならではのインフォーマルな支援との連携」への期待といった意見がありました。

○認知症対応型通所介護の主な意見

- ・認知症対応型ならではの「専門スキル」や「少人数の落ち着いた環境」を求める声が多く、ご利用者ができる事や得意な事を一緒に取り組んでいただき、生きがいや楽しみ、役割を持って過ごせるようなケアを期待しているなどの声も寄せられました。
- ・利用単価やご本人やご家族の生活リズムに合わせた送迎時間の柔軟な運用といった面で、紹介する際の障壁となることがある。
- ・ご家族への助言や、認知症ケアに関する情報発信の充実に関する意見がありました。

②通所介護系事業の取組

- ・身体機能の維持、向上に向けたケアの重視

4月からはじめた個別機能訓練では、その方の「したいこと」をご本人と一緒に話し合い、個別に目標を決めてメニューを考えます。その日の体調に合わせて内容の変更や回数調節を行っています。継続することも大切ですが、無理をせず「今できること」を大切に取り組んでいます。



・多様なアクティビティと地域活動との連携

季節を感じる行事や、手作業、レクリエーションを通じ、脳への刺激と他者との交流を促進しています。「次はいつ？」とデイサービスを楽しみにしていただけるような、活気ある空間づくりを目指しました。また、地域のボランティアの皆様との交流や、地域の身近な話題を提供することで、社会の一員としての実感を持って過ごしていただけるよう努めています。



(園児との交流)



(ふれあいコンサート)



(季節の外出)



(干し柿づくり)



(ボランティアさんとの交流)



(プレゼント製作活動)

・ちやがゆの郷カフェの開催

新型コロナウイルス感染症の影響により休止していました認知症カフェ「ちやがゆの郷カフェ」を地域の皆様との対話を起点に再開しました。

再開にあたっては、運営推進会議において「既存の地域サロンは集落の端に位置しており、移動手段の制約から参加を断念している方がいる」という課題があり、ちやがゆの郷が「地域の中心部」に位置するという立地上の利点を活かし、誰もが通いやすい場所として再開に向けて助言をいただきました。地域住民の皆様との協力のもと、開催の運びとなりました。

再開当日は、多くの地域住民の方々が参加くださり、ご利用者様とのお話やレクリエーションを通じて、活気ある雰囲気になりました。



・事業所通信の発行
ご利用者、ご家族、ケアマネジャーへ日々の活動内容をお伝えしています。



2 介護予防活動育成支援事業（委託）

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、身近な地域で住民主体の通いの場を展開し、継続的な介護予防（フレイル）活動を実施することで、健康寿命の延伸を図ることを目的としています。

地域福祉課の地区担当者とともに長寿福祉課、保健センター、地域包括支援センター、自治会をはじめ、企業、図書館など多機関と協働しながら進めてきました。

(1) 活動実績

市内各地のサロンや通いの場から依頼があり、のべ121箇所へ訪問し、2,234名の方に介護予防活動の支援を行いました。

地区	訪問回数	のべ人数	地区	訪問回数	のべ人数
平田	9回	169人	南部	6回	101人
市辺	5回	108人	永源寺	1回	18人
玉緒	1回	15人	五個荘	5回	102人
御園	12回	142人	愛東	3回	48人
建部	2回	35人	湖東	7回	125人
中野	5回	107人	能登川	19回	388人
八日市	6回	82人	蒲生	40回	794人
			合計	121回	2,234人



(2) 介護予防の知識や体操に興味のある方に向けての通いの場創設

「アピアでみんなと健康に」 開催回数 12回 のべ197名の参加
 「ウエルシアでみんなと健康づくり」 開催回数 12回 のべ 73名の参加



通いの場創設に向けた取組として、介護予防の普及啓発を目的に、毎月アル・プラザ八日市4階みんなの広場にて「アピアでみんなと健康に」とウエルシア東近江沖野店フリースペース（ウエルカフェ）にて「ウエルシアでみんなと健康づくり」を開催しました。

より多くの方に知ってもらうために、地域サロンや集いの場、社協が関係している事業などネットワークを活用して、チラシを配布し周知を行った結果、特に「アピアでみんなと健康に」には、1回に25名の参加があるなど、少しずつ参加者も増えてきています。

「ウエルシアでみんなと健康づくり」ではウエルシアにおられる専門職（薬剤師、管理栄養士等）と開催に向けての企画会議を実施し、参加される方の要望などに応じた内容で実施しました。

(3) 「若返り応援サポーター」との活動

○「マイナス5歳の健康づくり教室」（週1回、3箇月で全12回 4クール）

①4/1～6/24、②7/1～9/23、③10/7～12/23、④1/7～3/25）

株式会社平和堂、学校法人関西医科大学、日本ハム株式会社、コガソフトウェア株式会社と東近江市と連携・協働し、高齢者のフレイル予防を目的とした「マイナス5歳の健康づくり教室」に参加しました。本教室を支援する「若返り応援サポーター」（健康推進員やスポーツ推進員等）として、参加者が安全に運動ができるようサポートや助言などを行いながら共に取り組んでいただきました。

○「若返り応援サポーター」との活動

「若返り応援サポーター」が地域で活動できるよう定期的に集まる機会を作り、介護予防活動の思いを聞きとりを行いました。また、サポーターの活動状況の把握を行い、今年度は、サポーターとの介護予防支援として、地域のサロンや集いの場からのフレイル予防依頼にも同行していただきました。

○マイナス5歳の健康づくり教室交流会の開催

「マイナス5歳の健康づくり教室」の参加者から「教室終了後も集まる場所があれば行きたい」「同じグループの人と話す機会はあったが、全員で話をする機会はなかった。参加者同士で話をする機会がほしかった」という意見を受け止め、修了生同士が交流し、改めてフレイル予防の重要性と健康づくりを継続する機会として交流会を開催しました。

サポーターに準備や当日の体操やスクエアステップの指導など中心的な役割を担っていただ

くことができました。今後も、サポーターの組織化や活動の場の提案、地域への派遣調整を整えていきたいと思えます。また、この教室をきっかけに参加者同士がグループを結成し、月1回のペースで運動や食事会をしていることが分かり、教室が単なる体操の場だけでなく、参加者同士の主体的な活動を引き出し、自発的に集いの場を維持している点はフレイル予防における理想的な展開と考えます。



(4) 図書館でフレイル予防への参画

フレイル予防の啓発として、図書館と協働して「図書館でフレイル予防」では各関係機関と連携し、フレイルチェックや体操を実施しました。

3 住居提供事業（永源寺事務所「ゆうあいの家」）（委託）

冬季（1月～3月）の間、おおむね65歳以上で一人暮らしなど生活に不安のある方の住まいとして、ゆうあいの家で3名の受入を行いました。

年齢	入居期間	のべ日数
98歳	令和8年1月5日～令和8年2月28日	55日
93歳	令和8年1月10日～令和8年3月28日	78日
69歳	令和8年1月19日～令和8年3月26日	67日

今年度は、6名（5世帯）の方から入居についての問い合わせがあり、申請者数は3名。入居に際しての面談等を実施し、3名の方が入居されました。

入居申請される理由の多くは、冬季の日常生活に不安がある方や積雪の影響でご家族等の支援が難しいといったことが挙げられていました。問い合わせの中には住環境や生活上の課題を抱えておられる方や夫婦で入居を希望だが、要介護の認定を受けているが入居は可能かなどの相談がありました。

入居者3名は、それぞれの過ごし方で住居提供事業を利用され、積雪による生活上の心配もなく安心して生活を送ることができました。また、作業所やデイサービスに通われておられるため、ゆうあいから冬季の間も変わらず通っていただくことができ、入居中も地域の行事に参加されたり、近所の方の来訪もあり、入居後も地域とのつながりが途切れることなく生活していただけました。